

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	宇代 貴文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本の歴史上には数多くの優れた作品があります。授業では日本美術史の流れにしたがい、各時代の作品の造形や意味、歴史的背景など、作品鑑賞の基礎を学びます。到達目標としては、日本美術への理解を深め、実際に作品を見たうえで自らの言葉で説明できるようになることを目指します。					
授業概要					
授業は講義形式でおこないます。はじめに美術史を概説したうえで、作品を何点か取りあげ、基本的な事柄を説明します。時に歴史的背景にも踏み込んだ説明も行いますが、あくまで作品の様式を理解することに重点をおきます。毎回プロジェクターでスライドを映しながら、様々な作品を紹介し、その表現や技法、制作状況、意味について解説していきます。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
授業で紹介した作品について、展覧会に実際に自らの目で見て内容を理解することを勧めます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
講義で示した課題			40		
年度末レポート			60		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史				
出版社名	美術出版社	著者名			
参考書名2	日本の美術 1～545号				
出版社名	至文堂・ぎょうせい	著者名			
参考書名3	日本美術全集 全20巻				
出版社名	小学館	著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

寺院学芸員の視点から、美術史だけでなく地域の歴史文化や文化財保護も視野に入れた授業を行う。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクション 縄文・弥生時代(土器・土偶・青銅器)
2	古墳時代 埴輪・副葬品・壁画など 高松塚・キトラ古墳
3	飛鳥・白鳳時代① 仏教公伝と仏教美術の開花 法隆寺釈迦三尊・飛鳥大仏・広隆寺菩薩半跏像など
4	飛鳥・白鳳時代② 聖徳太子信仰と白鳳の美 夢殿救世観音、天寿国繡帳、玉虫厨子、橘夫人念持仏厨子など
5	奈良時代① 南都大寺の興隆 薬師寺(薬師三尊像・東塔)、興福寺(山田寺仏頭・八部衆十大弟子)など
6	奈良時代② 東大寺と正倉院 法華堂不空羂索観音・戒壇院四天王・国家珍宝帳・正倉院工芸品など
7	奈良時代③ 鑑真と唐招提寺 唐招提寺(鑑真和上像・本尊盧舎那仏像・木彫群像)など
8	平安時代① 平安遷都 最澄と空海 延暦寺(根本中堂・伝教大師将来日録) 東寺(講堂諸像)など
9	平安時代② 仏教の多様化(密教・神仏習合) 神護寺薬師如来・高雄曼荼羅・向源寺十一面観音・金峯山蔵王権現など
10	平安時代③ 摂関期の美術(法華経・浄土信仰) 平等院鳳凰堂・浄瑠璃寺九体阿弥陀・藤原道長金銅経筒など
11	平安時代④ 院政期の美術 中尊寺金色堂・仁和寺蒔絵冊子箱・年中行事絵巻など
12	平安時代⑤ 平安王朝の装飾 普賢菩薩像(東博)・東寺十二天像・高野山阿弥聖衆来迎図・平家納経など
13	平安時代⑥ 平安絵巻物 信貴山縁起・伴大納言絵巻・鳥獣人物戯画など
14	鎌倉・南北朝時代① 鎌倉幕府と武家の文化 似絵と肖像彫刻(重源像・空也上人像・明恵上人像・神護寺三像など)
15	鎌倉・南北朝時代② 運慶と快慶 東大寺南大門金剛力士・願成就院阿弥陀・東大寺僧形八幡神坐像など
16	鎌倉・南北朝時代③ 鎌倉絵巻物 北野天神縁起絵巻・一遍聖絵・春日権現験記絵巻など
17	鎌倉・南北朝時代④ 中世の信仰と美術(浄土教・神祇) 知恩院早来迎・山越阿弥陀・善光寺阿弥陀・那智滝図・春日曼荼羅など
18	室町時代① 足利将軍家と美術 鹿苑寺足利義満・牧谿瀟湘八景図・伝徽宗桃鳩図・曜変天目茶碗など
19	室町時代② 禅宗の美術・水墨画 明兆達磨図・如拙瓢鮓図・雪舟慧可断臂図・四季山水図など
20	室町時代③ 狩野派の興隆(狩野正信・元信) 大徳寺大仙院障壁画・妙心寺霊雲院障壁画・周茂叔愛蓮図など
21	桃山時代① 織豊時代 天下人の造形 茶の湯 南蛮 織田信長像・豊臣秀吉像・聚楽第図屏風・南蛮屏風など
22	桃山時代② 障壁画の荘厳(狩野永徳・光信) 長谷川等伯 狩野永徳唐獅子図・洛中洛外図・園城寺勸学院・智積院障壁画など
23	江戸時代① 徳川幕府と美術 岩佐又兵衛と風俗画 日光東照宮・二条城障壁画・山中常盤物語絵巻(MOA美術館)など
24	江戸時代② 江戸狩野・京狩野(狩野探幽・山楽・山雪) 妙心寺天球院障壁画・大覚寺障壁画など
25	江戸時代③ 琳派(俵屋宗達・尾形光琳・酒井抱一) 建仁寺風神雷神図・紅白梅図屏風(MAO美術館)・夏草図屏風(東博)など

26	江戸時代④ 京都画壇(円山応挙・伊藤若冲・曾我蕭白・長澤芦雪) 金刀比羅宮障壁画・動植綵 絵・群仙図屏風(文化庁)・虎図襖など
27	江戸時代⑤ 浮世絵(菱川師宣・喜多川歌麿・葛飾北斎・歌川広重) 見返り美人図(東博)・富嶽三 十六景・東海道五十三次など
28	江戸時代⑥ 文人画(池大雅・与謝蕪村) 庶民信仰の美術(白隠・円空・木喰) 楼閣山水図(東 博)・夜色楼台図・達磨図・木食自刻像など
29	江戸時代⑦ 中国・西洋画の解釈(南蘋派・秋田蘭画・司馬江漢・垂欧堂田善) 不忍池(秋田近 美)・柳汀双禽図(琵琶文)・異国風景人物図(神戸市博)など
30	近代 岡倉天心と日本美術 悲母観音(東京芸大)・鮭(東京芸大)・老猿(東博)など

科目名	図学	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	壺井 勘也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
図学を通して知るデザインの楽しさとおもしろさを具体的に理解し、世界各地に存在する建築構造物はもとよりビジュアルに表現されたデザイン商品からプロダクトデザイン・インダストリアルデザインに応用された製品やファッション界における楽しいグッズに至るまでのデザイン力をつける。					
授業概要					
対面授業で行う。前期(具現化された形態を基に図学の基本を習得する)後期(具体的に表現方法を理解し作図による演習をする)造形作家、公共事業、モニュメントを制作するにあたり、完成予想図を作成する技術を習得する。高校美術・工芸教諭としての基礎知識、作図、画法の習得が必須。以上今日までの職務経験において必要とされる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
特に後期からの授業においては配布された資料をもとに事前に予習し、理解を深める。講義された内容を反復する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
試験			100		
教科書情報					
教科書1	指導教員による作成教材(後期)				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	古代エジプトに始まる幾何学の理解と学習。
2	古代ギリシャにおける数学を応用した幾何学の説明。
3	古代ローマにおける遺跡に見られる建造物から始まる形態の学習。
4	江戸期における日本の実測図学の歴史を研究。
5	日本における幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。
6	ヨーロッパにおける幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。
7	生活・文化の中に息づく図学について考察。
8	生活・文化の中に息づく図学について考察。
9	生活・文化の中に息づく図学について考察。
10	生活・文化の中に息づく図学について考察。
11	インテリアデザインに活用された図学の基本。
12	ビジュアルデザインに活用された図学の基本。
13	インダストリアルデザインに活用された図学の基本。
14	コンストラクション・コンポジションの理解。
15	一点透視図法の技法を習得。
16	一点透視図法の技法を習得。
17	一点透視図法の技法を習得。
18	二点透視図法の技法を習得。
19	二点透視図法の技法を習得。
20	二点透視図法の技法を習得。
21	アイソメ投影法の研究。
22	アイソメ投影法の研究。
23	アクソメ投影法の研究。
24	アクソメ投影法の研究。
25	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
26	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
27	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
28	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
29	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
30	自動車のパースを自由課題として提出。

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	五十嵐 公一				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本では多くの優れた作品が作られてきました。授業ではそれらの作品を時代の流れに沿って紹介してゆきます。日本美術史は実に面白い学問です。その面白さを伝えること、そして興味を持ってもらうことが授業目的であり到達目標です。					
授業概要					
授業では、先ず作品が生まれた時代背景を説明します。それを踏まえ、パワーポイントの画像を見てもらいながら多くの作品を紹介してゆきます。作品がどのような状況で生まれ、どのような意味を持っているのかを知ってもらいたいと思います。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
毎回の授業の初めに、出席カードを配ります(出席カードは授業終了後に回収します)。そして授業の終わりに、簡単な課題を出します。その課題を指定された期限までに UNIPA で提出できたら授業に出席したと認めます。2/3 以上の授業に出席し、更に年度末レポートを提出しないと単位が取得できません。注意してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
毎回の授業で示した課題			50		
年度末のレポート			50		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	美術出版ライブラリー 歴史篇 日本美術史				
出版社名	美術出版社	著者名			
参考書名2	天皇の美術史 全6巻				
出版社名	吉川弘文館	著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	01 縄文・弥生時代 ・火焰型土器、遮光器土偶など
2	02 古墳時代 ・高松塚古墳、キトラ古墳など
3	03 飛鳥・白鳳時代 ・釈迦三尊像(法隆寺)、弥勒菩薩像(野中寺)など
4	04 奈良時代:薬師寺と興福寺 ・薬師寺東塔、阿修羅像(興福寺)など
5	05 奈良時代:東大寺と正倉院 ・不空羂索観音像(東大寺)、鳥毛立女屏風(正倉院)など
6	06 奈良時代:鑑真来日と唐招提寺 ・鑑真和上像(唐招提寺)、唐招提寺金堂諸像など
7	07 平安時代:最澄と空海 ・東寺講堂諸像、灌頂歴名(神護寺)など
8	08 平安時代:摂関政治と美術 ・平等院鳳凰堂、九体阿弥陀如来像(浄瑠璃寺)など
9	09 平安時代:院政期の美術 1 ・薬師如来像(仁和寺)、阿弥陀三尊像(長岳寺)など
10	10 平安時代:院政期の美術 2 ・普賢菩薩像(東京国立博物館)、平家納経(厳島神社)など
11	11 平安時代:絵巻 ・源氏物語絵巻(徳川美術館・五島美術館)、伴大納言絵巻(出光美術館)など
12	12 鎌倉・南北朝時代:運慶と快慶 ・大日如来像(円成寺)、阿弥陀三尊像(浄土寺)など
13	13 神護寺三像の問題 ・伝源頼朝像・伝平重盛像・伝藤原光能像(神護寺)
14	14 鎌倉・南北朝時代:天皇と武家 1 ・後鳥羽天皇像(水無瀬神宮)、隨身庭騎絵巻(大倉集古館)など
15	15 鎌倉・南北朝時代:天皇と武家 2 ・伊勢物語絵巻(久保惣記念美術館)、春日権現縁起巻(宮内庁三の丸尚蔵館)など
16	16 室町時代:足利将軍家と美術 ・足利義満像(鹿苑寺)、融通念仏縁起絵巻(禅林寺)など
17	17 室町時代:雪舟等揚 ・四季山水図(毛利博物館)、天橋立図(京都国立博物館)など
18	18 室町時代:狩野派の登場 ・大徳寺大仙院障壁画、四季花鳥図屏風(白鶴美術館)など
19	19 安土桃山時代:狩野永徳と長谷川等伯 ・唐獅子図屏風(宮内庁三の丸尚蔵館)、松林図屏風(東京国立博物館)など
20	20 江戸時代:豊臣から徳川へ 1 ・二条城障壁画、名古屋城障壁画など
21	21 江戸時代:豊臣から徳川へ 2 ・妙心寺天球院障壁画、雪汀水禽図屏風など
22	22 江戸時代:琳派 1 ・風神雷神図屏風(建仁寺)、紅白梅図屏風(MOA美術館)など
23	23 江戸時代:琳派 2 ・夏秋草図屏風(東京国立博物館)、夏秋溪流図屏風(根津美術館)など
24	24 江戸時代:浮世絵 1 ・喜多川歌麿、東洲斎写楽ほか
25	25 江戸時代:浮世絵 2 ・葛飾北斎、歌川広重ほか
26	26 江戸時代:18世紀の京都 1 ・雪松図屏風(三井記念美術館)、無量寺障壁画など
27	27 江戸時代:18世紀後半の京都 2 ・動植綵絵(宮内庁三の丸尚蔵館)、雲龍図(ボストン美術館)など
28	28 江戸時代:京都御所 ・京都御所障壁画など
29	29 明治時代:日本画と洋画 ・鮭(東京藝術大学)、無我(東京国立博物館)など
30	30 大正時代以降 ・序の舞(東京藝術大学)、立てる像(神奈川県立近代美術館)など

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	笹谷 純雄				
クラス名					
授業目的と到達目標					
授業では主として18世紀後半における新古典主義の成立から、19世紀の西洋美術を概観する。あわせて西洋美術全般に関する理解を深める。					
授業概要					
<p>この授業で取り上げる18世紀後半から19世紀という時代は、私たちの時代と直結している時代である。世俗化、個人主義、民主主義、大衆化、商業主義、資本主義、科学技術の発達による機械工業化、情報化等々、私達が生きている現代社会を特徴づける基本的な仕組みの大部分が、この時代に出来上がったといってもよいだろう。時代とともにある美術活動も例外ではない。まず、ものづくりを志す若者が基本的な技術を習得する手立てとしては、かつては親方のもとで徒弟として修行するという形態であったが、それが今日のように、職業訓練所や美術学校での教育という形態に変わった。そして、ものづくりの形態自体が主として、次の三種類に分化した。一つが、熟練した手技をもつ職人が行う伝統的工芸。一つが、卓越した個性と創造性を誇る芸術家が行う美術。もうひとつが、工業デザイナーとエンジニアと工場労働者が機械によって行う工場生産である。つぎに、作品の流通に関しては、それまでほとんど個人の占有物であった美術品の多くが、博物館や美術館で一般に公開され、あるものは国や自治体に買い上げられて、人々の共有財産となった。さまざまな展覧会が頻りに開催されて、それまでは美術アカデミーの会員といった一部の特権的な芸術家だけに出品が許されていたが、さまざまな芸術家たちがさまざまな作品を、ほぼ自由に発表し展示できるようになった。また、作品の売買に関しては、画商と画廊が登場して、芸術家と購買者の仲介をするようになった。すなわち、社会状況の激変によってそれまで芸術家を後援し作品を購入してくれていた教会や王侯貴族が没落して力を失い、芸術家は経済的基盤が不安定となっていった。しかし、資本主義の発達によって経済活動が急速に活発となり、多くの一般市民にも金銭的な余裕が生まれ、教会や王侯貴族に代わって彼らが美術品の新しい購買層となった。そして経済的に不安定となった芸術家と、新しい購買層である不特定多数の市民たちとの仲介役となったのが画商と画廊なのである。さらに、作品情報の伝達に関しては、新聞や雑誌の美術ジャーナリズムが読者に展覧会情報を提供し、展示作品の見所などを解説するようになった。新しい作品をいち早く紹介し、目新しい試みに対する人々の好奇心を刺激し、ときにはスキャンダルを巻き起こす。そして写真や動画などの新しい映像手段の発明、発達、普及によって、人々は美術館や展覧会に実際に足を運んで実物を見なくても、見たい作品や好きな作品の精巧な複製画像を、好きな時に好きなだけ身近に眺めて、作品を鑑賞しているつもりになることさえできるようになった。そして作品鑑賞の在り方が多様化するにつれて、作品の提示の仕方も多様化し、ついには作品の在り方自体、作品という概念自体が大きく変貌してゆく。授業では18世紀後半から19世紀における、このような政治的、経済的、社会的、文化的状況との関連のなかで、美術の展開を概観し、激動の時代を身をもって生きた美術思想家と美術家たちの生涯と作品を紹介し考察する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			50		
平常点			50		
教科書情報					
教科書1	教科書は使用しません。必要に応じて、授業資料を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報	
参考書名1	授業資料以外の参考図書と参考資料は授業中に随時紹介します。
出版社名	著者名
参考書名2	
出版社名	著者名
参考書名3	
出版社名	著者名
参考書名4	
出版社名	著者名
参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	本授業で取り上げる 18、19 世紀の美術が、古代、中世、近代そして現代にいたる西洋美術の歴史全体の中でどのような位置を占め、どのような意味をもっているのかを、授業シラバスの授業概要にもとづいて概観する。
2	18 紀から 19 世紀におけるヨーロッパの政治的、経済的状況と動向を概観する。
3	前回につづき、18 世紀から 19 世紀におけるヨーロッパの社会的、文化的状況と動向を概観する。
4	前回につづき、18 世紀から 19 世紀におけるヨーロッパの思想的状況と動向を概観する。
5	18 世紀後半における新古典主義の成立とその背景について。
6	新古典主義の理念について。
7	ドイツ人思想家ヨハン＝ヨアヒム・ヴィンケルマンの生涯について。
8	ヴィンケルマンの著作『ギリシア美術模倣論』について。
9	ヴィンケルマンの思想全体について。
10	新古典主義におけるヴィンケルマンの役割について。
11	美術史研究の歴史、方法論においてヴィンケルマンが果たした役割について。
12	新古典主義前の 18 世紀西洋彫刻について。
13	新古典主義のフランス人彫刻家オギュスタン・パジューの生涯について。
14	新古典主義のフランス人彫刻家パジューの作品について。
15	新古典主義のスウェーデン人彫刻家ヨーハン＝トビアス・セルゲルの生涯について。
16	新古典主義のスウェーデン人彫刻家セルゲルの作品について。
17	新古典主義のイタリア人彫刻家アントーニオ・カノーヴァの生涯について。
18	新古典主義のイタリア人彫刻家カノーヴァの作品について。
19	新古典主義のデンマーク人彫刻家ベルテル・トルヴァルセンの生涯について。
20	新古典主義のデンマーク人彫刻家トルヴァルセンの作品について。
21	新古典主義以後の 19 世紀彫刻を概観する。とくにロマン主義彫刻について。
22	新古典主義前の 18 世紀西洋絵画を概観する。

23	新古典主義のフランス人画家ジャック＝ルイ・ダヴィッドの生涯について。	
24	新古典主義のフランス人画家ジャック＝ルイ・ダヴィッドの作品について。	
25	ジャック＝ルイ・ダヴィッドの弟子たちについて。	
26	新古典主義後の 19 世紀西洋絵画を概観する。	
27	ロマン主義の理念とその背景について。	
28	ロマン主義の画家たちについて。	
29	写実主義の理念と画家たちについて。	
30	印象主義の理念と画家たちについて。	

科目名	工芸論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	高瀬 博文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業は次の事柄を通して自由な精神と創造性を養うのを目的とする。 前期: 芸術と生活の接点に位置する工芸の在り方を考える 後期: 民藝的観点と現代工芸的観点から工芸を考える					
授業概要					
対面授業工芸は生活にかかわっていることから当然機能が重んじられる。しかし工芸作品において、フォルムやテクスチャーは単純に機能から演繹されているのではない。それではいったい作品成立のための工芸の本質とは何なのか。授業では参考文献や資料を用いてその問題について考える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
しっかりと授業に出席し、授業での話と参考書等によって理解を深めて下さい。板書を行いますので、自分のノートに要点を写して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業中のスタンプ獲得数による)			50%		
テスト(学年末に一回)			50%		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	生活造形の美学				
出版社名	光生館	著者名	谷田悦次		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクション: 工芸の本質をめぐって
2	「生活造形の美学」を参考に生活造形としての工芸を考える
3	「生活造形の美学」を参考に機能主義とは何かを考える
4	機能主義の源流1. : 19世紀中頃に現れた機能主義(アーツアンドクラフツなど)について
5	機能主義の源流2. : バウハウスまでの機能主義の発展をめぐって
6	バウハウスにおける機能主義1. : バウハウス宣言(1919)にみる機能主義のあり方
7	バウハウスにおける機能主義2. : バウハウス工房の製品について
8	バウハウスにおける機能主義3. : 機能主義と機械生産について(バウハウスの変貌)
9	バウハウスのパラドクス1. : バウハウスの機能主義の成り立ちにおけるパラドクス
10	バウハウスのパラドクス2. : バウハウスに始まる機能と形態の問題の再考察
11	バウハウス以後のデザインについて: 機能主義を越えて
12	現代のデザインをめぐって1. : 実の透明性(バウハウス)から虚の透明性(ル・コルビュジェ)へ
13	現代のデザインをめぐって2. : 虚の透明性の実現としての戦後デザイン
14	19世紀中頃~20世紀後半のデザインの流れにおける機能と形態の問題
15	前期まとめ
16	「生活造形の美学」を参考に意匠について考える
17	「生活造形の美学」を参考に郷土に根ざす工芸を考える
18	民藝運動のはじまり: 柳宗悦の生涯、「雑器の美」などにおける民藝の基本的思想
19	民藝運動の展開: 「工芸文化」などにみる民藝思想の成熟
20	民藝運動と仏教思想: 他力の観点から民藝を考える
21	民藝作家1. : 浜田庄司(柳の民藝思想の具体化)
22	民藝作家2. : 河井寛次郎(柳の民藝思想からの逸脱)
23	民藝思想に対する批判: 人間復興の工芸という観点より民藝を考える
24	民藝運動の功罪について(明治以降の工芸の流れにおける民藝の位置付け)
25	民藝思想の乗り越え1. : 富本憲吉の作品(なぜ富本は民藝運動から離脱したのか)
26	民藝思想の乗り越え2. : 富本憲吉の思想(富本が考えた概念・設計図なき制作)
27	民藝思想と富本憲吉の思想との比較検討
28	戦後の工芸をめぐって1. : 走泥社における富本憲吉の思想の受容
29	戦後の工芸をめぐって2. : 1960年代以降の工芸にみる富本憲吉の思想、後期まとめ
30	学年末テスト、授業内容に関する今後の展望

科目名	デザイン史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					
授業目的と到達目標					
近代から現代までのデザインの変遷を概観する。デザインを、新たに強く問題化したり、大きく変容させたり、加速して前進させたり、逆行もしくは反復した歴史的に重要な事例を、リプレイしてゆく。それはまた、デザインという視点から、技術・メディア・社会・文化・精神等の史の変容を辿る試みともなる。そうしたデザインの歴史や、デザインと歴史との関係について、基礎的な理解を得ること。また、デザインへの批評眼や理論の体得が、目標となる。					
授業概要					
【対面授業】デザインとは何かについて、まず(再)問題提起を行う。そして、近代という時代性のなかで、デザインが重要な問題として浮上してきた経緯を確認する。その後、それがどのような曲折を経つつ、進展していったかを現代までフォロー。最後に、近代とポスト近代の双方の事後的ステージに入った現代において、デザインがいかなる新たな変質と可能性を示しつつあるかを考察する。以上を、図版や映像資料を適宜活用しながら、進めてゆく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。なお、授業への理解を深めるために、世界史の基礎知識をメンテナンスすることも必要とされる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末テスト(筆記)			80		
平常点			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	世界デザイン史				
出版社名	美術出版社	著者名	阿部公正ほか		
参考書名2	デザイン史入門				
出版社名	晃洋書房	著者名	T. ハウフェ著 藪亨訳		
参考書名3	デザインの小さな哲学				
出版社名	鹿島出版会	著者名	V.フルッサー著 瀧本雅志訳		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「イントロダクション: デザインとは何か?」: 「デザイン」とは何かについて、デザイン史やデザイン論の主要な著書をいくつか紹介しながら、(再)問題提起してゆく。この問いの「解答」を固定的に示すのではなく、「デザイン」が実に重要な「近代」の「問題」となって登場することをまずは確認してみたい。アートとデザインの違い(の有無)についても、考察する。
2	「近代デザイン前史」: 産業化の勃興以前に、「デザイン」という問題意識は存在したかどうかを考察する。フランス革命前のファッション、シェーカー派の家具、ウェッジウッドの陶器等が、その中心として検討される。
3	「産業革命と万国博覧会」: 技術の発達、いかに産業に応用され、それがデザインの生産や流通や消費条件を大きく変えていったかを振り返る。また、デザインの展示という概念を加速させた万国博覧会の 19 世紀における意義を、パッサージュやデパートの空間デザインとあわせて捉えてゆく。
4	「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」: ウィリアム・モリスを中心に、そこから、ひとつの近代運動としてのデザイン活動がテイクオフしていった意義を顧みる。また、モリスによる壁紙・ステンドグラス・家具・金工・書物等について具体的に検討する。
5	「マッキントッシュとグラスゴー派」: アーツ・アンド・クラフツ運動が唯美化したグラスゴー派のデザインを取り上げる。とりわけ、特異な才能を発揮したマッキントッシュの作品にスポットをあて。彼に見られるモダニズムの徴候についても確認を行う。
6	「アール・ヌーヴォー①」: 19 世紀末のヨーロッパに登場したアール・ヌーヴォーの全体像をまずは捉える。続けて、ブリュッセル、パリにおけるその具体例を概観してゆく。注目される固有名は、アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、エクトール・ギマル、ミュシャ、ルネ・ラリック等。ボナールら、美術史との交錯にも目を向ける。
7	「アール・ヌーヴォー②」: フランスのナンシー、イギリス、アメリカに登場したアール・ヌーヴォーを検討する。とりわけ重要性をもつ人物は、オーブリー・ビアズリー、エミール・ガレ、テイファニー等となるだろう。
8	「ユーゲント・シュティルとダルムシュタット芸術家村」: アール・ヌーヴォーと同時期にドイツに現れた新傾向(ドイツでのアール・ヌーヴォー)について見てゆく。雑誌では、『パン』や『ユーゲント』の意義、またユートピア的なデザイン活動が実践されたダルムシュタット芸術家村コロニーの可能性を検討する。
9	「ウィーン分離派とウィーン工房」: 過去の様式からの訣別＝分離を宣言し、1897 年にウィーンでクリムトを中心に結成された分離派の活動を振り返る。また、オットー・ヴァグナーの建築、ヨーゼフ・ホフマンとコロマン・モーザーが主導したウィーン工房の製品を検討する。さらには、『装飾と犯罪』等の文章で、強烈な装飾批判を展開したアドルフ・ロースにも注目してゆく。
10	「モダニズム建築の先駆者たちとドイツ工作連盟」: 帝国ホテルや芦屋川の旧・山邑邸などで、日本とも馴染みの深いアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトに見られる早初のモダニズムのベクトルを検討する。また、近代運動としてのデザインを、より産業生産へ適合させる改革を進めた活動のひとつであるドイツ工作連盟について見てゆく。
11	「バウハウス①」: トータルな近代デザインの学校にして、その最大の実験場ともなったバウハウスは、1919 年にワイマールに創立された。その設立当初の状況や意図、実際の運営プログラムはどうであったかに注目する。
12	「バウハウス②」: デッサウに移転した 1925 年以降の第 2 期、1932 年～33 年のベルリンでの第 3 期で、バウハウスがどう変容していったかを、具体的なデザインの成果を見ながら考察する。また、アメリカでのその活動の継続や、戦後のウルム造形大学についても概説する。
13	「デ・ステイル／表現主義／アール・デコ」: デ・ステイルは、1917～31 年にかけてオランダのドゥースブルフが刊行した雑誌名、及びそれに関わった人物たちのグループ。モンドリアンやファン・デル・レックの抽象絵画との関わりや、リートフェルトの家具や建築についても理解の端緒を開く。

14	「ロシア・アヴァンギャルドとデザイン」: 革命前後のロシアの前衛運動について、生活変革のためのデザインという視点から、その結果的な挫折に至るまでを追ってゆく。ロシア構成主義のみならず、絶対主義の非デザインについても、その思想に触れてゆく。
15	「アール・デコ」: アール・デコとは、1925年にパリで開かれた博覧会に顕著な装飾スタイルをいう。アール・ヌーヴォーとの違いに注目しながら、それらが1920年代のデザインでいかなる意味を持ったかを、ル・コルビュジエの言説や表現主義とも比較しながら、振り返る。
16	「印刷メディアとグラフィック・デザインの進展」: 左記の問題について、グーテンベルクの活版印刷術以降の変遷を概観しながら、特に19世紀末から第一次大戦前までのベル・エポック期の成果に焦点を当てる。
17	「前期の内容のまとめ+前期の復習テスト」: 後期2週目にあたるこの回の授業では、前期の内容を確認し、またあわせて、後期3週目以降の授業につなげるためのテストを行う。
18	「インダストリアル・デザイナーの登場とスタイリング」: インダストリアル・デザインという概念が最初に浮上してくる当時のアメリカのデザイン状況を顧みる。考察されるのは、摩天楼、流線型、メトロポリス、オーガニック・デザイン、レイモンド・ローウィ等。
19	「インターナショナル・スタイルとMoMA」: 1929年に開館し、絵画や彫刻のみならず、写真や映画、ひいては建築や製品のデザインまでもいち早くその対象としたNY近代美術館の功罪を探る。とりわけ、1932年に開催された「近代建築: 国際展」により、いかに近代運動としての建築が、デザインやスタイルの問題に変換されたかを再考する。
20	「50~60年代イタリアとドイツのデザイン」: 第二次大戦による荒廃にも関わらず、またたく間にデザイン大国となったイタリアの戦後20年を検討する。また、やはり敗戦国であるドイツのデザイン面における復興を、1940年代末以降の「ゲーテ・フォルム」の概念や1953年に開学したウルム造形大学に焦点を当てつつ考察する。
21	「アメリカ的生活様式とカリフォルニア・モダン」: 50年代アメリカの家庭の豊かさを演出した諸デザインを見てゆく。また、特にその注目すべき例として、西海岸で展開されたモダニズムの地方変形版としてのカリフォルニア・デザインにスポットをあてる。これについては、イームズ夫妻、ケーススタディ・ハウスの住宅を中心に触れてゆく。また、イームズの映像作品の上映も予定している。
22	「スウィング・ロンドン」: 60年代、ロンドンで大衆的なユースカルチャーが爆発する。ストリート主導のファッションは、モードの都パリさえもリードする勢いを見せる。マリー・クワントのミニスカート、トゥイギー、美容師をヘアデザイナーへ昇格させたヴィダル・サスーン等のデザインに触れる。また、1950年代半ば以降のロンドンでのポップアートが、この時代にどうつながったかも再検証する。
23	「60年代のパリ・ファッション」: スウィング・ロンドンの攻勢に対し、パリのファッションはどのような新たな動きを見せたか。クレージュ、イヴ・サンローラン、ピエール・カルダンを中心に、パリ・モードの変革の方向性をトレースする。
24	「60年代のサウンドデザイン」: 60年代半ば以降、ポップミュージックの新たな可能性が、録音される楽曲のサウンドデザインというかたちで大いに探求されるようになる。それに先立つ現代音楽の空間意識、マーティン・デニーのサウンドスケープ、フィル・スペクターの音の壁を検証。そして60年代に至ってのビーチボーイズの「ペット・サウンズ」や、ビートルズの「Sgt ペッパーズ」等の意義を確認する。
25	「アンビルトとグラフィック・デザインとしての建築」: 建築家の設計=デザイン活動は、建物を現実に建てることだけにあるのではない。むしろ、グラフィックやイメージや情報のデザインとしての建築こそが、未来へ向けた都市や建築の自由なビジョンを提示しうる。そうした考えのアンビルトの思想が、60年代に活発化する。アーキグラム、ロバート・ヴェンチャー、メタボリズム、スーパーグラフィックス等のデザインを振り返る。
26	「BIBAとクラシカル・エレガンス」: 近代のキーワードは、「進化」や「進歩」や「新しさ」だったはずだ。しかし、60年代後半、過去をノスタルジックに振り返ることが「新しさ」となる逆説が、大衆的なレベルでファッションや映画等に生じてくる。そうした転回について、主にロンドンの伝説的なブランドBIBAのデザインを顧みながら、考察する。
27	「アンチ・デザイン」: 70年代には、慣例的なグッド・デザインや良き趣味を嫌うアンチ・デザインが、パンクミュージックともクロスしつつ台頭する。また、90年代前半には、汚いプアなデザインとしての「グランジ」も注目される。それらの効果を、音楽も参照しながら検討してゆく。

28	「北歐デザインの可能性」:デンマーク、フィンランド、スウェーデンのデザインの魅力に触れる。アルネ・ヤコブセン、アールト、マリメッコをはじめとするデザインと、それを成立させた条件について考える。
29	「70年代以降の建築デザイン」:70年代になると建築では、モダニズムのデザインに意図的・戦略的に抗うポストモダンのデザインが隆盛を極めてゆく。歴史的引用、多様で表層的な装飾、イメージの過剰さに走るそれらのデザインの特徴を確認するとともに、それ以降の脱構築のデザインや髣建築、ライト・コンストラクションについても考察してゆく。
30	「グローバリゼーション下の新たなるデザイン概念」:、グローバルなデジタル情報資本主義の現代に、デザインはいかなる概念や営みに変質してきているのか？ デザインのこれからの可能性も考えるべく、ブルース・マウやレム・コールハースといった新しいタイプのデザイナーの活動をケーススタディする。また、アイコン建築やビルバオ・エフェクト、BIMについても見てゆく。

科目名	美術特論Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	河田 昌之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
独自の美を形成している日本美術の特質を講義します。作品解説ができるほど日本の美術が好きになることを目指します。					
授業概要					
日本の美術の名作を順次取り上げ、パワーポイントを併用しながら講義します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
展覧会等で実際の作品をできるだけたくさん観ることを勧めます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学期末試験			50		
レポート(平常課題)			30		
平常の授業態度(出席状況など)			20		
教科書情報					
教科書1	使用しません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
登録博物館の学芸員として、約37年間を展覧会の企画や美術品の収集、保管、展示等の実務にあたり、そのうちの約10年間は館長として組織運営や対外的な交流などの美術館マネジメント分野にも携わり、現在もそれを継続しています。こうした経験を基にして、美術品に関する具体的な事例を提示しながら、実社会で応用できる「生きた情報」を盛り込んで講義します。					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	平安時代の美術(1)やまと絵
2	平安時代の美術(2)やまと絵
3	平安時代の美術(3)やまと絵
4	平安時代の美術(4)仏画
5	平安時代の美術(5)仏画
6	平安時代の美術(6)料紙装飾
7	平安時代の美術(7)料紙装飾
8	鎌倉時代の美術(1)似絵
9	鎌倉時代の美術(2)似絵
10	鎌倉時代の美術(3)似絵
11	鎌倉時代の美術(4)やまと絵
12	鎌倉時代の美術(5)やまと絵
13	鎌倉時代の美術(6)その他
14	鎌倉時代の美術(7)その他
15	室町時代の美術(1)水墨画
16	室町時代の美術(2)水墨画
17	室町時代の美術(3)水墨画
18	室町時代の美術(4)水墨画
19	室町時代の美術(5)墨蹟
20	室町時代の美術(6)やまと絵
21	室町時代の美術(7)やまと絵
22	江戸時代の美術(1)風俗画 洛中洛外図
23	江戸時代の美術(2)風俗画 初期洋風画
24	江戸時代の美術(3)風俗画 その他
25	江戸時代の美術(4)装飾画派 俵屋宗達
26	江戸時代の美術(5)琳派 1 尾形光琳
27	江戸時代の美術(6)琳派 2 酒井抱一
28	江戸時代の美術(7)文人画
29	江戸時代の美術(8)円山・四条派
30	江戸時代の美術(9)浮世絵版画

科目名	工芸史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	片岡 淳				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本の工芸分野のうち、多様な素材と高い技術力について、歴史をたどりながら、講義していく。工芸という概念がいつできたのか、歴史をたどりながら探っていく。様々な様式やジャンルのなかで、制作の視野を広げることができることを本講義の目標とする。					
授業概要					
日本の工芸を中心に、その分野と歴史と変遷について講義する。実用品としての工芸から美術品としての側面について、現代から遡って学んでいく。進度によってはシラバス通りに行わない。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
なるべく自分の目で、実物を博物館や美術館で鑑賞して、感受性を高めてください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
積極的な授業参加として、毎回必ず出席カードを配布し、質問に答えて回収します。			10		
前期末レポートと学期末レポートを所定の様式 PDF で期日までに必ず提出してもらいます。			80		
材料は授業者が準備します。ハサミ、カッターなどの道具は持参してもらいます、事前に連絡します。			10		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	必要な資料は印刷して配布する。				
出版社名		著者名			
参考書名2	工芸の領分 工芸には生活感情が封印されている				
出版社名	美学出版	著者名	樋田豊次郎		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

出席は60%以上、毎回出席カードを提出してもらいます。また、簡単な質問に答えてもらいます。教員が国の伝統的工芸品の認定に関わった経験をもとに、工芸振興の指定や振興についての行政の立場からの工芸の製作分野についても指導する。わからないことばは、自習しましょう。あるいは、その都度、質問して理解を深めましょう。

教員実務経験

琉球大学教育学部勤務25年。沖縄県立芸術大学非常勤講師24年勤務。吉岡常雄工房勤務7年、その間大阪芸術大学副手、朝日新聞社朝日カルチャー・帝塚山大学・明石短大等で恩師の授業助手を行う。また東大寺落慶法要伎楽衣装復元作業・南米ペルー貝紫調査等に参加、研究方法について実践を積む。現在、本学のほか京都市立芸術大学非常勤講師。これらの豊富な指導経験を活かし、染織を中心に日本の工芸の歴史について理解を深める力を修得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	工芸の定義手芸と工芸の違い、芸と道とは。日本文化の特色。 本講義で取り上げてもらいたいテーマについてアンケートを実施します。
2	素材による分類。 工芸品のある暮らし。形と大きさ・器を事例に解説
3	陶芸と金工喫茶を楽しむ。道具の素材と形。喫茶の概説、茶葉の種類と製法と道具の関係。 実際にお茶を飲んでみよう。各自じぶんのコップ・湯呑み・カップを持参してください。
4	竹工と木工、漆 床の間という精神空間のある日本家屋。
5	ガラス、釉薬と陶器、瑠璃と金属、絹の精練のワラ(ケイ酸)について 素材と工芸分野の領域と歴史
6	染と織 紙・布・皮
7	正倉院の工芸 技法について 染織を中心に
8	正倉院の工芸 文様の変遷・世界性
9	平安時代の染織 襲色(かさねいろ)配色の美:表裏・経緯糸の組み合わせ・衣を重ねる、透け重なるいろの美。
10	鎌倉時代の染織 相撲の行司装束 なぜ相撲をとるのか。祭りに見る邪気払いと折り
11	公家と武士の装束、新たな染織技法を開発した武家社会。 着物の始まりと変遷、生地幅は座り方の変化に従って狭くなった。
12	美しいということ 手度法・美しい比率
13	産業革命とモノつくりの変化 江戸時代から明治時代 徳川幕府から明治政府刀鍛冶、鎧職人の技術の変革、万国博覧会出品
14	土産と小物文化小さな工芸品、かわいいが好きな日本人
15	ナレと繕いの日本文化金継ぎ、景色 <前期での受講内容で興味が深まったこと、または疑問に思ったことを調べたことについてレポートを提出してください。A4、一行40字で30行を目安に、必ず学生記番号氏名明記を提出期限は追ってお知らせします。>
16	ゴミを出さないモノつくり、江戸のリサイクルと工芸紙・塵紙屋・洪紙屋使い捨ての陶器のコップ、循環する工芸品
17	江戸時代の渡り職人沖縄の工芸の誕生
18	染織技術の伝播豊後絞りから有松・鳴海へ、東北の絞染め(浅舞・白根・横手)
19	糊防染、型染と筒描き祝いと吊いの布
20	ハレとケ 三角頭巾はなぜ、死人につけるのか。 黒、金そして白色へ

21	紙の加工について
22	上物と下手物喫茶 道具と用途 歪みや割れ 見立て
23	和模様の起源 青海波・立桶文様、松竹梅模様など
24	ブルージーンズの始まり ブルーのデニムのズボンの歴史と変遷実際にブルージーンズの生地に各自ダメージ加工をする演習体験あり。インディゴ染料の性質の理解をすると同時に 100 年以上世界の人類に親しまれる染織品の歴史と変遷について。
25	明治の工芸 工芸という言葉のはじまり 産業としての工芸・ものづくり
26	琉球ガラス
27	大正時代の染織 染料の発明と銘仙 大衆文化の登場昭和の工芸 染織作家を中心に
28	ファイバーアートとソフトスクラブチャー学年末レポート課題の説明
29	布の形・糸の形の作家
30	補遺と総括

科目名	工芸特論Ⅲ	年次	3	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	黒河 兼吉				
クラス名					
授業目的と到達目標					
テーマはものづくりとその周辺について。デザインと工芸領域の多様なトピックスに触れ、自らと社会の接点を見出していくこと。他者の異なる視点を理解し、自己表現において新しいアプローチを見つけることを目標とする。					
授業概要					
対面授業とする。デザインと工芸に関わるヒト・モノ・コトにおいて幅広いテーマで理論や事例などを紹介する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
授業内小レポート			50		
受講態度			50		
教科書情報					
教科書1	特になし				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	プロダクトデザイン				
出版社名	株式会社ワークスコーポレーション	著者名	山崎和彦		
参考書名2	問題解決ラボ				
出版社名	ダイヤモンド社	著者名	佐藤オオキ		
参考書名3	だれでもデザイン				
出版社名	朝日出版社	著者名	山中俊治		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
陶磁器作家および陶磁器デザイナーとしての業務実績を持つ教員が講義する。					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	ガイダンス 授業概要説明				

2	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
3	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
4	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
5	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
6	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
7	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
8	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
9	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
10	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
11	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
12	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
13	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
14	代表的事例を通して学ぶものづくりに関わるヒト・モノ・コトを紹介する	
15	前期授業の振り返り	
16	ものづくりとその周辺についてものづくりの発想と手がかり	
17	ものづくりとその周辺についてものづくりの発想と手がかり	
18	ものづくりとその周辺についてものづくりの発想と手がかり	
19	ものづくりとその周辺についてものづくりの発想と手がかり	
20	ものづくりとその周辺についてものづくりの発想と手がかり	
21	ものづくりとその周辺についてものづくりの発想と手がかり	
22	ものづくりとその周辺についてものづくりの発想と手がかり	
23	ものづくりとその周辺について作品を伝えること	
24	ものづくりとその周辺について作品を伝えること	
25	ものづくりとその周辺について作品を伝えること	
26	ものづくりとその周辺について作品を伝えること	
27	ものづくりとその周辺について作品を伝えること	
28	ものづくりとその周辺について作品を伝えること	
29	ものづくりとその周辺について作品を伝えること	
30	後期授業の振り返り	

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	小谷 訓子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業は、本学建学の精神を表す五角形の理念全てに関わる「基礎的な芸術力」を養う教科として、西洋美術史の基礎的な知識を身につけてもらうことを目的とする。西洋古代からの芸術作品を歴史の流れの中で学ぶことは、学生が時代に即しながら「自己」や「自己流」そして自分の作品を創造する時に、重要な刺激やインスピレーションを与える。授業のコンテンツが「過去」の「西洋」の「芸術作品」であることから、五角形の中でも特に CREATIVITY と GLOBAL の側面に深く関わっているところの「基礎的な芸術力」を育成することがこの授業					
授業概要					
この授業では、主に絵画、彫刻、建築を取り上げ、西洋世界における美術の歴史を学んでいく。その手続きとしてまずは、各芸術作品の「線」「色彩」「光」「構成(構図)」「形態」「空間」「媒体」を分析し、その作品が所属する時代と地域における様式的特色を認識する。その上で、作品に映し出された社会の状況、政治的なメッセージ、イデオロギー、慣習、作家の意図やパトロン意図などを歴史的に把握していく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
毎週、授業に関する指示や詳細を UNIPA でチェックすること。授業資料のスライド・リストと教科書を参考に、毎回の講義内容をノートに書きとめて、復習をしっかりとすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期末試験			0.45000000000000001		
後期末試験			45%		
提出物・平常点・その他			10%		
教科書情報					
教科書1	『新西洋美術史』				
出版社名	西村書店	著者名	石鍋真澄他著		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

授業内容や、進行のペースを変更する場合があります。 |

教員実務経験

最終学歴がアメリカの大学院の Ph.D.なので、アメリカでの研究生活が長く、留学中にプリンストン大学附属美術館においてルネサンス期の素描作品の展覧会を2回ほど部分担当したこともある。その他イタリアやフランスなどヨーロッパにも研究調査だけでなく留学経験もあるので、グローバル・スタンダードを意識した授業を展開する。但し、この授業に関しては西洋美術史の概説なので、それほど専門的なことには触れず、芸術作品を分析する際に必要な基本的なポイントを講義する。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	イントロダクション: 西洋美術史という学問について
2	古代ギリシャ美術
3	古代ローマ美術
4	古代美術の総まとめ
5	初期キリスト教美術とビザンチン美術
6	ロマネスク美術
7	ゴシック美術
8	中世美術の総まとめ
9	初期ルネサンス美術
10	イタリア・ルネサンス美術①
11	イタリア・ルネサンス美術②
12	北方ルネサンス美術
13	ヴェネツィア・ルネサンス美術
14	ルネサンス美術の総まとめ
15	古代美術・中世美術・ルネサンス美術の総括と前期末試験
16	マニエリスム美術
17	バロック美術①
18	バロック美術②
19	ロココ美術
20	ルネサンス・バロックから近代世界へ
21	新古典主義美術
22	ロマン主義美術
23	19世紀美術①
24	19世紀美術②
25	印象主義絵画
26	ポスト印象主義絵画
27	20世紀美術①
28	20世紀美術②
29	モダン・アート総まとめ
30	16世紀～20世紀美術の総括と後期末試験

科目名	デザイン史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					
授業目的と到達目標					
近代から現代までのデザインの変遷を概観する。デザインを、新たに強く問題化したり、大きく変容させたり、加速して前進させたり、逆行もしくは反復した歴史的に重要な事例を、リプレイしてゆく。それはまた、デザインという視点から、技術・メディア・社会・文化・精神等の史の変容を辿る試みともなる。そうしたデザインの歴史や、デザインと歴史との関係について、基礎的な理解を得ること。また、デザインへの批評眼や理論の体得が、目標となる。					
授業概要					
【対面授業】デザインとは何かについて、まず(再)問題提起を行う。そして、近代という時代性のなかで、デザインが重要な問題として浮上してきた経緯を確認する。その後、それがどのような曲折を経つつ、進展していったかを現代までフォロー。最後に、近代とポスト近代の双方の事後的ステージに入った現代において、デザインがいかなる新たな変質と可能性を示しつつあるかを考察する。以上を、図版や映像資料を適宜活用しながら、進めてゆく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。なお、授業への理解を深めるために、世界史の基礎知識をメンテナンスすることも必要とされる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末テスト(筆記)			80		
平常点			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	世界デザイン史				
出版社名	美術出版社	著者名	阿部公正ほか		
参考書名2	デザイン史入門				
出版社名	晃洋書房	著者名	T. ハウフェ著 藪亨訳		
参考書名3	デザインの小さな哲学				
出版社名	鹿島出版会	著者名	V.フルツサー著 瀧本雅志訳		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「イントロダクション: デザインとは何か?」: 「デザイン」とは何かについて、デザイン史やデザイン論の主要な著書をいくつか紹介しながら、(再)問題提起してゆく。この問いの「解答」を固定的に示すのではなく、「デザイン」が実に重要な「近代」の「問題」となって登場することをまずは確認してみたい。アートとデザインの違い(の有無)についても、考察する。
2	「近代デザイン前史」: 産業化の勃興以前に、「デザイン」という問題意識は存在したかどうかを考察する。フランス革命前のファッション、シェーカー派の家具、ウェッジウッドの陶器等が、その中心として検討される。
3	「産業革命と万国博覧会」: 技術の発達、いかに産業に応用され、それがデザインの生産や流通や消費条件を大きく変えていったかを振り返る。また、デザインの展示という概念を加速させた万国博覧会の 19 世紀における意義を、パッサージュやデパートの空間デザインとあわせて捉えてゆく。
4	「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」: ウィリアム・モリスを中心に、そこから、ひとつの近代運動としてのデザイン活動がテイクオフしていった意義を顧みる。また、モリスによる壁紙・ステンドグラス・家具・金工・書物等について具体的に検討する。
5	「マッキントッシュとグラスゴー派」: アーツ・アンド・クラフツ運動が唯美化したグラスゴー派のデザインを取り上げる。とりわけ、特異な才能を発揮したマッキントッシュの作品にスポットをあて。彼に見られるモダニズムの徴候についても確認を行う。
6	「アール・ヌーヴォー①」: 19 世紀末のヨーロッパに登場したアール・ヌーヴォーの全体像をまずは捉える。続けて、ブリュッセル、パリにおけるその具体例を概観してゆく。注目される固有名は、アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、エクトール・ギマル、ミュシャ、ルネ・ラリック等。ボナールら、美術史との交錯にも目を向ける。
7	「アール・ヌーヴォー②」: フランスのナンシー、イギリス、アメリカに登場したアール・ヌーヴォーを検討する。とりわけ重要性をもつ人物は、オーブリー・ビアズリー、エミール・ガレ、テイファニー等となるだろう。
8	「ユーゲント・シュティルとダルムシュタット芸術家村」: アール・ヌーヴォーと同時期にドイツに現れた新傾向(ドイツでのアール・ヌーヴォー)について見てゆく。雑誌では、『パン』や『ユーゲント』の意義、またユートピア的なデザイン活動が実践されたダルムシュタット芸術家村コロニーの可能性を検討する。
9	「ウィーン分離派とウィーン工房」: 過去の様式からの訣別＝分離を宣言し、1897 年にウィーンでクリムトを中心に結成された分離派の活動を振り返る。また、オットー・ヴァグナーの建築、ヨーゼフ・ホフマンとコロマン・モーザーが主導したウィーン工房の製品を検討する。さらには、『装飾と犯罪』等の文章で、強烈な装飾批判を展開したアドルフ・ロースにも注目してゆく。
10	「モダニズム建築の先駆者たちとドイツ工作連盟」: 帝国ホテルや芦屋川の旧・山邑邸などで、日本とも馴染みの深いアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトに見られる早初のモダニズムのベクトルを検討する。また、近代運動としてのデザインを、より産業生産へ適合させる改革を進めた活動のひとつであるドイツ工作連盟について見てゆく。
11	「バウハウス①」: トータルな近代デザインの学校にして、その最大の実験場ともなったバウハウスは、1919 年にワイマールに創立された。その設立当初の状況や意図、実際の運営プログラムはどうであったかに注目する。
12	「バウハウス②」: デッサウに移転した 1925 年以降の第 2 期、1932 年～33 年のベルリンでの第 3 期で、バウハウスがどう変容していったかを、具体的なデザインの成果を見ながら考察する。また、アメリカでのその活動の継続や、戦後のウルム造形大学についても概説する。
13	「デ・ステイル／表現主義／アール・デコ」: デ・ステイルは、1917～31 年にかけてオランダのドゥースブルフが刊行した雑誌名、及びそれに関わった人物たちのグループ。モンドリアンやファン・デル・レックの抽象絵画との関わりや、リートフェルトの家具や建築についても理解の端緒を開く。

14	「ロシア・アヴァンギャルドとデザイン」: 革命前後のロシアの前衛運動について、生活変革のためのデザインという視点から、その結果的な挫折に至るまでを追ってゆく。ロシア構成主義のみならず、絶対主義の非デザインについても、その思想に触れてゆく。
15	「アール・デコ」: アール・デコとは、1925年にパリで開かれた博覧会に顕著な装飾スタイルをいう。アール・ヌーヴォーとの違いに注目しながら、それらが1920年代のデザインでいかなる意味を持ったかを、ル・コルビュジエの言説や表現主義とも比較しながら、振り返る。
16	「印刷メディアとグラフィック・デザインの進展」: 左記の問題について、グーテンベルクの活版印刷術以降の変遷を概観しながら、特に19世紀末から第一次大戦前までのベル・エポック期の成果に焦点を当てる。
17	「前期の内容のまとめ+前期の復習テスト」: 後期2週目にあたるこの回の授業では、前期の内容を確認し、またあわせて、後期3週目以降の授業につなげるためのテストを行う。
18	「インダストリアル・デザイナーの登場とスタイリング」: インダストリアル・デザインという概念が最初に浮上してくる当時のアメリカのデザイン状況を顧みる。考察されるのは、摩天楼、流線型、メトロポリス、オーガニック・デザイン、レイモンド・ローウィ等。
19	「インターナショナル・スタイルとMoMA」: 1929年に開館し、絵画や彫刻のみならず、写真や映画、ひいては建築や製品のデザインまでもいち早くその対象としたNY近代美術館の功罪を探る。とりわけ、1932年に開催された「近代建築: 国際展」により、いかに近代運動としての建築が、デザインやスタイルの問題に変換されたかを再考する。
20	「50~60年代イタリアとドイツのデザイン」: 第二次大戦による荒廃にも関わらず、またたく間にデザイン大国となったイタリアの戦後20年を検討する。また、やはり敗戦国であるドイツのデザイン面における復興を、1940年代末以降の「ゲーテ・フォルム」の概念や1953年に開学したウルム造形大学に焦点を当てつつ考察する。
21	「アメリカ的生活様式とカリフォルニア・モダン」: 50年代アメリカの家庭の豊かさを演出した諸デザインを見てゆく。また、特にその注目すべき例として、西海岸で展開されたモダニズムの地方変形版としてのカリフォルニア・デザインにスポットをあてる。これについては、イームズ夫妻、ケーススタディ・ハウスの住宅を中心に触れてゆく。また、イームズの映像作品の上映も予定している。
22	「スウィング・ロンドン」: 60年代、ロンドンで大衆的なユースカルチャーが爆発する。ストリート主導のファッションは、モードの都パリさえもリードする勢いを見せる。マリー・クワントのミニスカート、トゥイギー、美容師をヘアデザイナーへ昇格させたヴィダル・サスーン等のデザインに触れる。また、1950年代半ば以降のロンドンでのポップアートが、この時代にどうつながったかも再検証する。
23	「60年代のパリ・ファッション」: スウィング・ロンドンの攻勢に対し、パリのファッションはどのような新たな動きを見せたか。クレージュ、イヴ・サンローラン、ピエール・カルダンを中心に、パリ・モードの変革の方向性をトレースする。
24	「60年代のサウンドデザイン」: 60年代半ば以降、ポップミュージックの新たな可能性が、録音される楽曲のサウンドデザインというかたちで大いに探求されるようになる。それに先立つ現代音楽の空間意識、マーティン・デニーのサウンドスケープ、フィル・スペクターの音の壁を検証。そして60年代に至ってのビーチボーイズの「ペット・サウンズ」や、ビートルズの「Sgt ペッパーズ」等の意義を確認する。
25	「アンビルトとグラフィック・デザインとしての建築」: 建築家の設計=デザイン活動は、建物を現実に建てることだけにあるのではない。むしろ、グラフィックやイメージや情報のデザインとしての建築こそが、未来へ向けた都市や建築の自由なビジョンを提示しうる。そうした考えのアンビルトの思想が、60年代に活発化する。アーキグラム、ロバート・ヴェンチャー、メタボリズム、スーパーグラフィックス等のデザインを振り返る。
26	「BIBAとクラシカル・エレガンス」: 近代のキーワードは、「進化」や「進歩」や「新しさ」だったはずだ。しかし、60年代後半、過去をノスタルジックに振り返ることが「新しさ」となる逆説が、大衆的なレベルでファッションや映画等に生じてくる。そうした転回について、主にロンドンの伝説的なブランドBIBAのデザインを顧みながら、考察する。
27	「アンチ・デザイン」: 70年代には、慣例的なグッド・デザインや良き趣味を嫌うアンチ・デザインが、パンクミュージックともクロスしつつ台頭する。また、90年代前半には、汚いプアなデザインとしての「グランジ」も注目される。それらの効果を、音楽も参照しながら検討してゆく。

28	「北歐デザインの可能性」: デンマーク、フィンランド、スウェーデンのデザインの魅力に触れる。アルネ・ヤコブセン、アールト、マリメッコをはじめとするデザインと、それを成立させた条件について考える。
29	「70年代以降の建築デザイン」: 70年代になると建築では、モダニズムのデザインに意図的・戦略的に抗うポストモダンのデザインが隆盛を極めてゆく。歴史的引用、多様で表層的な装飾、イメージの過剰さに走るそれらのデザインの特徴を確認するとともに、それ以降の脱構築のデザインや襞建築、ライト・コンストラクションについても考察してゆく。
30	「グローバリゼーション下の新たなるデザイン概念」: グローバルなデジタル情報資本主義の現代に、デザインはいかなる概念や営みに変質してきているのか? デザインのこれからの可能性も考えるべく、ブルース・マウやレム・コールハースといった新しいタイプのデザイナーの活動をケーススタディする。また、アイコン建築やビルバオ・エフェクト、BIMについても見てゆく。

科目名	工芸特論 I	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	片岡 淳				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本の染織を中心に工芸の種類と技法の理解を深める。染織を中心に工芸の技術や資料について、海外の事例も参照しながら概要や特色について説明する。 工芸免許に対応できる理解度を目標とする。					
授業概要					
日本および海外の染織を中心に工芸の技法、文化、歴史などについて講義する。 進度または受講生の要望によっては、シラバスと異なる授業内容になることがある。 簡単な実習を通して、理解を深める。 地域のモノづくり、または作家の仕事について前期レポートを提出してもらう。 学年末レポートを必ず提出してもらう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
日本の染織を中心に工芸について講義するが、中国、インド、イラン(ペルシャ)等ユーラシアヨーロッパ等広い視野で染織や工芸の技術をとらえる。世界の地理、日本文化史区分を確認し、世界の染織についても図書館博物館等で意識的に事前事後に調べてほしい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講姿勢 簡単な実習を通して各自の取り組む姿勢と意欲を確認する。毎回出席カードを提配布し回収します。			30		
前期末レポートと学期末レポートを期日までに必ず PDF で提出してもらいます。			70		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	日本の美術 No.12 織物				
出版社名	至文堂	著者名	西村兵部編		
参考書名2	日本の美術 No.7 染				
出版社名	至文堂	著者名	山辺知之編		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
講義に必要な資料は、講義の前に配布する。2/3 以上出席をしていることを確認します。工芸分野の理解や創作、工芸産業振興の仕事を含めて講義します。、系統的に考える力を身につける指導を目指します。	
教員実務経験	
琉球大学教育学部勤務 25 年。沖縄県立芸術大学非常勤講師 24 年勤務。吉岡常雄工房勤務 7 年、その間大阪芸術大学副手、朝日新聞社朝日カルチャー・帝塚山大学・明石短大等で恩師の授業助手を行う。また東大寺落慶法要伎楽衣装復元作業・南米ペルー貝紫調査等に参加、研究方法について実践を積む。現在、本学大学院客員教授のほか京都市立芸術大学非常勤講師。これらの豊富な指導経験を活かし、染織の立場を軸に海外の事例や製作の理論についての理解を深める力を修得させる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の目的と進め方・概要・評価方法など説明。 芸術の分野、工芸とは、工芸の分野について 人はいつからモノづくりを始めたのか。洞窟壁画の光源は、何か。洞窟の天井に煤が無いのはなぜか。
2	染・織とは
3	編み物と織物の違いについて 織物は編み物から始まった？ 三本の編み物、4 本の編み物組織から織物の組織を探る作業を通して考えてみたい。くて組と編み物の違いについて簡単な実習を行なう。
4	染めること、彩色と染色について 着彩には、顔料を使う彩色と染料をつかう染色がある。粒子の大きさを順を追って事例をもとに説明する。
5	日本文化史区分表について 縄文時代のくらし・編み物大嘗祭に使う麻は阿波忌部、縄文からのしきたり。 なぜ、日本は縄文時代が長かったのか。その理由について講義する。 オノマトペが豊富な日本語、その起源は縄文時代か。
6	編み物・織物の種類と技法 弥生時代の特色、織物、機道具
7	天然顔料と染料着彩には顔料を用いた彩色と染料を用いた染色に大別できます。各色料の粒子の大小により分類し、技法について系統的に理解を深めます。
8	飛鳥の染織 纏向遺跡の工房跡から紅花の花粉が発見されたということ。大嘗祭の始まり。
9	編み物・織物の歴史 織り機について 編むと織るの違いについて
10	天平の染織 正倉院御物を中心に講義を行なう。 なぜ、聖武天皇は盧遮那仏を造ろうとしたのか、当時の状況から染織品を中心に天平の世界を紐解く。
11	染色について、染料と染織技法 しろ、あか、くろときいろ。五色とは。色の名前に見る染料について
12	染料の種類について 染料の効能と色素 色のイメージについて
13	紙、不織布について 紙子と紙布・フェルト・樹皮布、皮と革の違い 叩く・漉く・縮絨・鞣すとは
14	紙について 素材・樹皮布・アマテ・パピルス、羊皮紙パーチメントペーパー・ベラム。 叩解・漉くという行為。紙目と製本。紙の活用。記録をする媒体。
15	前期の補遺とまとめ

16	沖縄の神事と衣装。織物を自家製し、字(あざ)の集会に着用する。商品ではない自前、家族のための着尺つくりと祭祀としての染織品について紹介します。
17	正倉院宝物について 皮革・くつについて
18	正倉院宝物染織品 本年度出陳を解説。技法、文様、素材について。
19	沖縄の謎の繊維植物 桐板(トンビヤンまたはトンバン)。植物が特定されていない植物繊維の織物を探る。
20	配色について: 教室を出て、落ち葉のスケッチをすることで、色鉛筆でそれらの色を再現し。配色を試みる。令和かさね色つくりの演習。画用紙は教室で準備。各自色鉛筆を持参してください。
21	沖縄の喪服 ヤシラミ、極薄い藍染色瓶覗(かめのぞき)地に紺と藍型。ハレとケ。
22	形と色の意味。 例) 三角と白の意味について なぜ、幽霊は白い三角巾を額に掛けるのか。その歴史と変遷。
23	テキスタイルデザイナーとは。産地の職人技術の理解と如何に販売するか。ストーリーを作る事例、行政の支援ほか。
24	伝統を守り生かすということ。ファッションからものつくりの動向を探る。
25	模様について 石畳、青海波・ウロコ、立桶模様の起源と伝播、象徴について。
26	江戸の学ぶ 工芸の世界
27	明治の染織 工芸作家の登場 ロウケツ染め
28	ヤボンセロックとは。西洋に渡った着物。
29	型染め作家の登場
30	後期の補遺とまとめと総括

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>建学の精神の国際的視野に立って、西洋美術作品の鑑賞を通じ、西洋美術の見方・考え方を学ぶと共に、ヨーロッパ社会の美術や文化との豊かな関わりを理解し、美術を愛する心と豊かな感性を育む。明治以降、日本が手本としたヨーロッパにおける美術の流れを大まかに理解して、近代から現代に連なる日本美術の理解を助け、ひいては現代を生きるための知識と感性を養う。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】古代ギリシア・ローマ文明から説き起こし、完成された一つの文明としての古代ヨーロッパ世界を理解する。ついで、キリスト教が中心となる中世の社会や美術を理解する。その後、古代と中世の交わる文明としての15世紀の初期ルネサンスにまで到達する。 作品に込められたメッセージや政治性・社会性をも理解し、美術作品を「読む」作業を繰り返し行う。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>高校レベルの世界史の基礎知識を持っていることが望ましい。世界史を選択しなかった場合でも、『もういちど読む山川世界史』などである程度の知識を得てから出席してほしい。また、授業中に出てきた作品については図書館で調べてより深い理解へと向かう努力をしてほしい。 美術史も知識の積み重ねが物を言う。したがって、授業で解説したことは、その日のうちにしっかりと復習して、次の回に備えてほしい。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学年末試験(2/3の出席が受験の前提)			100		
教科書情報					
教科書1	カラー版 西洋美術史				
出版社名	美術出版社	著者名	高階秀爾監修		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	西洋絵画の主題物語 I 聖書編 II 神話編(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	美術出版社	著者名	諸川春樹監修		
参考書名2	新装版 西洋美術解説事典(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	河出書房新社	著者名	ジェイムズ・ホール		
参考書名3	小学館世界美術大全集				
出版社名	小学館	著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	オリエンテーション「美術作品をいかに『読む』か」 まず、科目の名前を「西洋」「美術」「歴史」に分けてそれぞれの意味を説明し、本講義で何を扱うのかを解説する。ついで、ティツィアーノとマネの作品を取り上げながら、そこに込められたメッセージの解説を行なう。		
2	様式から古典様式までのギリシア美術 1「クレタ美術とミュケーナイ美術」 ギリシア半島における文化の発展に先立つ時代を取り上げる。その中で、古代地中海世界の超先進国であったエジプトからギリシア世界がいかに多くのことを学んだかを理解する。		
3	様式から古典様式までのギリシア美術 2「陶器画の発展」 幾何学模様時代の時代からコリントスを中心とする動物文の陶器、そしてアテナイで制作されたアッティカ様式の壺絵の展開を概説する。その中で、ギリシア美術、すなわち、ヨーロッパ美術の中核をなす人間への関心のあり方を理解する。		
4	厳格様式から古典様式までのギリシア美術 3「エトルリア美術とギリシア古典期の建築」 ギリシア文明とほぼ同時代にイタリア半島で栄えたエトルリア美術について理解する。また、ギリシア美術の最盛期と考えられる古典期の建築様式について理解する。その際、ヨーロッパ建築様式の基礎をなすイオニア、ドーリア、コリントスなどのオーダーについて学ぶ。		
5	厳格様式から古典様式までのギリシア美術 4「彫刻の発展」 クリティオス作《少年像》に端を発し、厳格様式、古典様式へと展開するギリシア彫刻の流れを理解し、その中核にある「コントラポスト」の概念について学ぶ。		
6	「白い文明」DVD NHK で放送された番組を鑑賞し、「ヨーロッパ文明の揺り籠としてのギリシア文明」という概念がいかにして作られていったか、そしてギリシア文明が純粋な「白い文明」として捏造されたかを理解する。		
7	「ヘレニズム美術」 アレクサンダー大王の死以降の時代を扱う。ヘラ(国としてのギリシアのギリシア語名)の文化が地中海の大きな領域へと拡大していくヘレニズム(ヘラ風)文化の特質と、我々が知るギリシア彫刻の多くがこの時代に属することを理解する。その中で宗教と密接に結びついていた美術が変質する様子を学ぶ。		
8	ローマ美術 1「アウグストゥスの時代まで」 共和制から王政に至るローマの歴史と文化を理解する。現代社会の基礎が古代ローマにあることを理解する。「パリスの審判」から「ローマの建国」に至る所謂ローマ建国神話について学ぶ。		
9	ローマ美術 2「アウグストゥスの時代以降」 初代皇帝となるアウグストゥスの時代から五賢帝時代を経て、ローマの滅亡へと至る時代と美術の流れを理解する。そこに見える歴史主義・記録主義という、ギリシア文明と異なるローマ文明の特質を理解する。		
10	ローマ美術 3「ポンペイの遺跡」 紀元 79 年に起こったヴェスヴィオス山の噴火によって埋没した古代都市ポンペイの悲劇と現在の研究状況について学ぶ。395 年に東西に分裂したローマ帝国の西半分(西ローマ帝国)が 476 年に滅亡するまでの末期の歴史と文化を学ぶ。		
11	「ローマ帝国」DVD NHK で放映された番組を鑑賞し、ローマの繁栄と滅亡の原因を探る。現在進行中の我々の現代文明の行き先をも占う古代ローマ帝国の状況を学ぶことで、我々が今後どのように生きるべきかを考える。		
12	「キリスト教における救済のメカニズム1」		

	姉妹宗教と言われるユダヤ教、キリスト教、イスラム教の関連を考え、その中で何故キリスト教は生まれなくてはならなかったのか、すなわち、神はキリストを通じてどのように人々を救済しようとしたのかを理解する。その中で「ゴルゴタ」や「受肉」の意味も解説される。
13	「キリスト教における救済のメカニズム2」 キリスト教の教義が説く救済のメカニズムが、美術作品の中にどのように現れているかを、作品を見ながら理解する。
14	「初期キリスト教美術1」 古代世界と重なるキリスト教誕生期の歴史を学び、その中で自らの信仰を隠すために人々がいか に隠語的な図像を生み出していったかを理解する。
15	「初期キリスト教美術2」 キリスト教が弾圧されていた時代に殉教した人々が、教義によってどのように聖人の列に加えられ たか(列聖)を理解し、聖人伝や聖人の典型的図像が生み出されていく様を学ぶ。
16	「教会の勝利の時代」 コンスタンティヌス帝によりキリスト教が許され、ついで国教になると、キリスト教の教義確立が目指 された歴史を学ぶ。その中で、図像がどのように変化していくかを理解する。
17	「ビザンティン美術」 西ローマ帝国で社会・文化が大きく変化していった時代に、東ローマ帝国ではどのような動きがあっ たのか、政治と宗教はどのような関係にあったのかを理解する。また、その後移ってきたトルコ人 によりイスラム教が信仰され、その中でキリスト教の教会が変容していくことを理解する。
18	「初期中世美術1」 ゲルマン民族の移動とそれに続くフランク王国の成立によって現代のヨーロッパの基礎が築かれた ことを理解する。写本装飾に関連して、写本、印刷、修道院などの歴史について学ぶ。
19	「初期中世美術2」 写本装飾の作品を鑑賞し、修道院や貴族の邸宅における写本制作について学ぶ。日本人の繊細 な装飾感覚に近い、ケルト人の装飾について理解を深める。
20	「ロマネスク様式1」 聖遺物崇敬やロマネスク建築の構造について理解する。聖ヤコブの遺体の発見が引き起こした全 ヨーロッパ的な巡礼の動きと、それに基づく聖堂の構造変化について理解する。
21	「ロマネスク様式2」 栄光のキリスト図像について学び、それが意味する修道院を中心としたこの時代の宗教活動を理 解する。
22	「ゴシック様式1」 文化の担い手の社会層が一段下がることによって、宗教美術のあり方が変わることを、それが修道 院長シュジェールの下にサン・ドニで起こることを理解する。「聖母マリア」を重視する教義が現れる ことも学ぶ。
23	「ゴシック様式2」 各地に大聖堂が数多く建設され、その装飾の中でステンドグラスが生まれることを理解する。
24	「国際ゴシック様式1」 14世紀 社会的混乱と封建制の動揺、すなわち、教皇のアヴィニオン幽囚、教会の大分裂(シス マ)、黒死病の流行、百年戦争などについて学び、その中で貴族を担い手とする優美な美術が生ま れることを理解する。
25	「国際ゴシック様式2」 同じ時代にイタリアでジョットが絵画に革新を起こし、それによって遠近法の基礎が築かれたことを 理解する。また、その変革が社会的な変質によって引き起こされたものであることを学ぶ。
26	「国際ゴシック様式3」 ジョットと同時代のシモーネ・マルティーニの作品や、ジョットに先立つニコラ・ピサーノの彫刻作品に ついて学ぶ。
27	「ルネサンス概説1」 ルネサンスの概念とそれを生み出した15世紀前半のフィレンツェの美術を理解する。特に建築に おけるブルネレスキ、彫刻におけるドナテッロ、絵画におけるマザッチョの役割を学ぶ。

28	「ルネサンス概説2」 マザッチョに続く15世紀半ばから後半にかけてのフィレンツェ絵画について学ぶ。
29	「ルネサンス概説3」 ドナテッロに続く15世紀半ばから後半にかけてのフィレンツェ彫刻について学ぶ。
30	授業のまとめと筆記の学年末試験。

科目名	美術論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	加藤 義夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
美術の哲学・思想を知り、自らの美的価値観や世界観を構築する基礎づくりを目的とします。現代アートを取り巻く環境、例えば美術館、ギャラリー、アートフェア、国際芸術祭、アートプロジェクトなど知り、現代のアートと社会との関係性を自分自身で認識し、自分の言葉で語れることを目標とします。					
授業概要					
西洋美術の根幹を成すキリスト教。旧約聖書・新約聖書を知らずして西洋美術は語れません。他方、古代ギリシャ神話は、ルネサンス以降に西洋美術史に刻印された大切な物語です。多様な価値観が生まれる20世紀美術においては、アートと社会の関係性を探求します。現代アートの祭典や美術館、ギャラリーのシステムについてアートマネジメントの観点から解説します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
前期に教科書「アートマネジメントを学ぶ」を読み、後期の予習としてください。復習では毎回の授業終了時に講義内容を、整理しまとめてみましょう。自身の授業感想を記述するのも良いでしょう。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期レポート課題「美術と旧約・新約聖書の関係性を分析する」			30%		
後期のレポート課題「マルセル・デュシャンと現代アート」			20%		
後期「空想美術館構想」をレポート課題として提出			50%		
教科書情報					
教科書1	アートマネジメントを学ぶ				
出版社名	武蔵野美術大学出版局	ISBNコード	978-4-86463-068-9	著者名	新見隆・伊東正伸・加藤義夫・金子伸二・山出淳也
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	西洋美術史				
出版社名	美術出版社	著者名	監修=高階秀爾		
参考書名2	20世紀の美術				
出版社名	美術出版社	著者名	監修=末永照和		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
アーツスケープ, http://artscape.jp					

特記事項	
「美術論」の授業では、適宜にオリジナルプリントを配布します。教科書「アートマネージメントを学ぶ」は、前期より後期で集中的に使用します。前期に後期予習として、教科書を読んでおくことをお勧めします。また、教科書は芸大を卒業してからも役に立つ教科書です。	
教員実務経験	
宝塚市立文化芸術センター館長・国際美術評論家連盟会員・芦屋市文化振興審議会会長・泉大津市文化芸術振興会議委員会会長・一般社団法人日本現代美術振興協会理事(ARTOSAKA 実行委員)・一般社団法人日本デザインマネジメント協会理事・民族芸術学会理事・美術館にアート贈る会理事・兵庫県立美術館評価委員・国立国際美術館評価委員・群馬青年ビエンナーレ審査委員長・「水都大阪」審査員及びアドバイザー・兵庫県展審査委員・京都賞推薦委員・VOCA 展推薦委員・美術手帖「展評」担当・日本経済新聞社「展評」担当・朝日新聞社「美術評」	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	1,ガイダンス シラバスを参照して授業の進め方、成績評価の説明 聖書の物語 — 旧約聖書と新約聖書の大まかな流れについて
2	2,西欧世界とキリスト教—part1 美術作品にみる旧約聖書の物語 — 創世記・アダムとイヴ・ノアの箱舟・バベルの塔
3	3,西欧世界とキリスト教—part2 美術作品にみる旧約聖書の物語 — モーセの誕生・出エジプト・十戒
4	4,西欧世界とキリスト教—part3 美術作品にみる新約聖書の物語 — 受胎告知・最後の晚餐
5	5,西欧世界とキリスト教—part4 美術作品にみる新約聖書の物語 — 磔刑・復活・最後の審判
6	6,古代ギリシャとルネサンス 再生という名の古典文化復興運動
7	7,古代ギリシャの神々 ゼウスとオリンポスの神々
8	8, レオナルド・ダ・ヴィンチの美術理論 万能の天才レオナルドの人生と作品について
9	9,イタリア・バロックの巨匠 カラヴァッジョ 光と影の劇的表現でバロック絵画の形成に影響を与えたカラヴァッジョについて
10	10,十七世紀のオランダとフランドル絵画の黄金期 大航海時代の巨匠たち ルーベンスとレンブラントについて
11	11,科学の発明と美術の関係について フェルメールが使った光学機器と写真の発明と美術の関係性について
12	12,近代芸術の萌芽 独創性への道 新古典主義 VS ロマン主義—理想美と個性美の対決
13	13,フランス革命がもたらす美術館のはじまりとコレクション 世界の美術館の基礎となったルーブル美術館について
14	14,万国博覧会とジャポニスム 浮世絵・琳派などの日本美術が、印象派やアール・ヌーヴォーに影響を与えた歴史
15	15,二十世紀モダンアートの礎ともいえるポスト印象派の画家たち セザンヌからピカソへ、ゴッホからマティスへ
16	16,ピカソはなぜ、20世紀を代表する画家なのか? ピカソの秘密を探る
17	17,ピカソとマティス—破壊と創造 20世紀最大の巨匠ピカソとマティスの物語
18	18,マルセル・デュシャンの美術理論—レディ・メイドという考え方

	男性用小便器をアートに仕立て上げた男の話
19	19,シュルレアリスムのサルバドール・ダリの美術理論 ダリの視点から見る巨匠たちの成績表
20	20,アメリカのアンディ・ウォーホルと戦後ドイツのヨゼフ・ボイスの美術理論 コピーとオリジナリティを考える/社会彫刻と芸術概念の拡張という考え方
21	21,アートプロジェクト-part1/クリスト&ジャンヌクロード プロジェクトという考え方のソーシャルアート
22	22,アートプロジェクト-part2/川俣正(ニューヨーク)、大久保英治(徳島)を紹介 法律をクリアし地域社会や住民を巻き込むアートプロジェクトのプロセス
23	23,展覧会を知る part1ー国際芸術祭の紹介 ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア)、ドクメンタ(ドイツ)について 「越後妻有アートトリエンナーレ(新潟県)」「瀬戸内国際芸術祭(香川県)」「横浜トリエンナーレ(神奈川県)」「あいちトリエンナーレ(愛知県)」などを紹介
24	24,展覧会を知る part2ー国際芸術祭の意義と効用 都市のまちづくり、地域社会の活性化、国際文化交流、経済波及効果など
25	25,展覧会を知る part3ー展覧会のつくり方 ーから作り上げる展覧会の方法を紹介
26	26,展覧会を知る part4ーギャラリーのシステムと仕事 ギャラリーの仕事やアートマーケットとオークションについて
27	27,世界のアートフェアを紹介 全世界で展開されるアートフェアという名の美術品見本市
28	28,アーティストになる方法 アーティストになる方法の紹介。アーティストのセルフマネジメント、セルフブランディング学び、表現者として作品制作を続ける方法を導きだします。
29	29,アートを続ける方 表現者として生き残るための方法を模索します。
30	30,アートに関係するお仕事 画家や彫刻家だけがアートに関係する仕事ではありません、さまざまな観点からアートに関係するお仕事を紹介

科目名	美術特論Ⅳ	年次	3	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名	【18生対象】				
授業目的と到達目標					
前期と後期で限定的なテーマを設定し、豊富な視覚飼料を駆使して絵画への理解と関心を深めていくとともに、貴重な作家研究の場にもしていくのが目的である。また、様々な作品や考え方との出会いを通して、受講生なりの絵画観や評価観を育てていくのが到達目標である。					
授業概要					
前期のテーマは『絵本の魅力と鑑賞法』、後期のテーマは『バロック絵画への招待』で、それぞれ代表的な作家とその作品の紹介や読み解きを通して、根底にある考え方や特徴的な表現を探っていく。作品鑑賞においては対話形式を取り入れ、受講生の積極的な意見発表を求めている。前半と後半に各2回「授業のまとめ」レポートが課される。なお、内容が一部変更されることもある。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
準備は特に必要ないが、授業中に気づいたことや自分なりに考えたことを記録しておき、レポート作成の前に読み返して、理解の定着をはかることが望ましい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
2回の「授業のまとめ」レポート			80%		
授業に取り組む姿勢			20%		
教科書情報					
教科書1	特にありません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業の中で適宜紹介します。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業者は長年にわたり、自身の制作と絡めて絵本やバロック絵画を研究している。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス 授業者の自己紹介と授業スケジュールや評価方法などについて説明する。
2	絵本鑑賞入門として、絵本への新しいアプローチを提案する。とりわけ重要な「絵本のメディア性」について解説し、代表的な幼児絵本の名作を複数取り上げて、具体的に「絵本のメディア性」を検証していく。
3	「絵本のメディア性」の中の見開き画面の活用法について、三つの絵本を取り上げて、具体的に検証するとともに、それぞれの絵本表現をじっくり読み解いていく。
4	「一枚絵としての魅力」の観点から、熊田千佳慕、高原美和、黒井健の3人の作家の絵本の絵にアプローチし、絵をじっくりと味わうとともに、絵本の本質が絵の高いクオリティにあることを実証する。
5	日本では珍しい写実的絵本の第一人者インノチェンティを取り上げ、代表作を通して絵のクオリティの高さを味わうとともに、絵本に込められたメッセージを読み解いていく。
6	「絵本のメディア性」が最もよく発揮される文字なし絵本の名作を3つ取り上げて紹介し、絵をじっくり見ることで、ストーリーや様々な仕掛け、込められたメッセージなどを読み解いていく。
7	「気象の変化が生むドラマ」を絵本で展開した3例を紹介し、気象の変化と主人公の心境の変化の関わりを読み解いていく。さらに3つの内、台風をモチーフとした二つの絵本を比較鑑賞し、どちらが優れているのかを判定していく。
8	「授業のまとめ」レポート① 前半の授業の中から印象に残ったものを三つ選び、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家や作品についての論述を行う。
9	アメリカの代表的絵本作家オールズバークの作品を三つ取り上げ、「一枚絵としての魅力」の観点から高い絵のクオリティをじっくり味わいながら、ミステリアスな世界の秘密を解明していく。
10	「怪談絵本」に分類される作品の中から、森洋子と町田尚子の作品を三つ取り上げ、怖い絵本の魅力をじっくり味わうとともに、「怖さ」を演出する作者の表現力を登場するモチーフや工夫された構図の観点から読み解いていく。
11	“絵本の申し子”ウィーズナーのユーモアとウィットに富んだ世界を、選りすぐりの三つの文字なし絵本を通して、画面構成や描写の工夫をじっくり味わうとともに、絵本に込められた物語やメッセージを読み解いていく。
12	ネコが主役の絵本を三つ取り上げ、ネコの生態や感情の変化を画面からじっくり味わう。三つの内の二つを「日米ネコ絵本対決」という設定で比較鑑賞し、それぞれの工夫点を確認しながら、最終的に優劣を判定していく。
13	ナンセンスな内容や現実離れした表現が特色の「シュールな絵本」の中からタイプの違うを三つの作品を取り上げ、各場面の読み解きから、それぞれの絵本の主題や仕掛けの数々にアプローチしていく。
14	近年注目が集まり、評価が高まっているオーストラリアの絵本作家ショーン・タンの日本デビュー作を取り上げ、高度な構成力や緻密な描写力、作品に込められたメッセージなどをじっくり読み解いていく。
15	「授業のまとめ」レポート② 後半の授業の中から印象に残ったものを三つ選び、授業全体から学んだことや感想、また授業で紹介した作家や作品についての論述を行う。
16	ガイダンス 授業のテーマとスケジュール、「授業のまとめ」レポートと成績評価についての説明を行う。その後『バロック絵画への招待』をスライドショーで行う。
17	『カラヴァッジョの世界』バロック絵画の創始者であるカラヴァッジョを取り上げ、対比明暗法による強烈な描写に様々な角度からアプローチし、カラヴァッジョ芸術の真髄に迫っていく。
18	『カラヴァジェスキの世界』近年再評価が進んでいるカラヴァジェスキ(カラヴァッジョの追随者たち)に焦点を当て、対比明暗法の応用者として、どのようにカラヴァッジョとの差異化を図ったのかを解明していく。

19	『ベラスケスの世界』 17世紀のスペインを代表する宮廷画家ベラスケスを取り上げ、激しさや派手さのない画面のどこがすごいのかを、じっくり考察していく。また傑作《ラス・メニナス》の「鏡のトリック」にも触れていく。
20	『スルバランの世界』 ベラスケスと並ぶ17世紀スペイン絵画の巨匠スルバランを取り上げ、静謐にして深遠な宗教画の世界をじっくりと味わうとともに、衣装の描写が印象的な、力強い人物表現に迫っていく。
21	『ラ・トゥールの昼と夜の世界』 20世紀になって忘却の彼方から蘇ったラ・トゥールを取り上げ、聖なる夜の宗教世界と俗なる昼の風俗世界の対照を味わいながら、その個性的な光の表現に迫っていく。
22	『ローマで活躍したフランス人画家たち プッサンとロランの世界』 激しい動勢と明暗の対比、生々しい現実性が特色のバロック期にあって、静謐で安定した調和を重視する古典主義的な絵画を展開した二人の画家を取り上げ、その表現を考察していく。
23	授業レポート① 前半の授業から三つを選び、授業全体から学んだことや考えたこと、また授業で紹介した作家や作品についての感想や意見を論述する。
24	『超人ルーベンスの味わい方』 「画家たちの王」にして「王たちの画家」と称され、バロック期の最大の画家として大活躍したルーベンスを取り上げ、その超人的な画業へ多角的にアプローチし、その凄さを明らかにしていく。
25	『レンブラントの世界』 17世紀オランダ絵画の黄金時代を代表するレンブラントの画業に様々な角度からアプローチし、独自の明暗法や細密描写に迫るとともに、多数描かれた自画像の世界にも触れていく。
26	『テル・ボルフとデ・ホーホの風俗画世界』 近年はフェルメールの陰にすっかり隠れてしまった感のあるテル・ボルフやデ・ホーホであるが、17世紀当時はオランダ風俗画を牽引する重要な作家たちであったことを、その生き残り戦略から読み解いていく。
27	『ロイスダールと17世紀オランダ風景画の世界』 西洋における風景画の最初の隆盛は17世紀のオランダで見られる。その中心的画家であるロイスダールを取り上げ、樹木や雲の壮大かつ緻密な表現を見て行く。またロイスダール周辺の画家も何人か紹介していく。
28	『フェルメールとシャルダンの世界』 日本における近年の集中的な紹介で17世紀オランダで最もよく知られた画家となったフェルメールと18世紀フランスの画家として風俗画の領域でフェルメールの表現につながるシャルダンを取り上げ、それぞれの特色に迫っていく。
29	『ロココ絵画の精華 ブーシェとフラゴナールの世界』 バロック絵画の壮大さを可憐で親しみやすいものへと変えていったフランスのロココ絵画を代表する二人の画家ブーシェとフラゴナールの愛やエロスの表現を紹介していく。
30	授業レポート② 後半の授業から三つを選び、授業全体から学んだことや考えたこと、また授業で紹介した作家や作品についての感想や意見を論述する。

科目名	美術特論Ⅲ	年次	3	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	石井 元章				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>建学の精神の国際的視野に立って、西洋美術作品の鑑賞を通じ、ルネサンス期イタリアの彫刻をフィレンツェを中心に概観する。それぞれの時代・作家が追求した造形課題を理解することで、美術の見方・考え方を養う。また、美術作品、特に公的性格を持つことの多い彫刻作品を通じて、造形作品に込められた社会的・個人的メッセージを読み解く訓練を行う。</p>					
授業概要					
<p>主に 15・16 世紀のフィレンツェ彫刻の流れを、それぞれの作品分析を行いながら、概観する。13 世紀のニコラ・ピサーノを出発点として、フィリッポ・ブルネッレスキ、ロレンツォ・ギベルティ、ドナテッロなどルネサンス彫刻の創始者の業績を抑え、それが 15 世紀後半に活躍する作家たちを通じていかにミケランジェロに受け継がれていくかを追う。ついで同時代のヴェネツィア彫刻について概説する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>一般的な世界史の基礎知識を持っていることが望ましいので、高校の教科書を再読するか、『もういちど読む山川世界史』などを使って予め勉強しておくこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学年末試験(2/3 の出席が受験の前提)			100		
教科書情報					
教科書1	ルネサンスの彫刻 15・16 世紀のイタリア(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	ブリュッケ	著者名	石井元章		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	新装版 西洋美術解説事典(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	ジェイムズ・ホール	著者名	河出書房新社		
参考書名2	小学館世界美術大全集				
出版社名	小学館	著者名			
参考書名3	西洋絵画の主題物語 I 聖書編 II 神話編(絶版の可能性あり、ネット通販で購入したり、図書館で閲覧したりすることが望ましい)				
出版社名	美術出版社	著者名	諸川春樹監修		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「オリエンテーション 1」ミケランジェロ作《ダヴィデ》を例に取り、図像と文献の関係の中で、特殊な図像が生まれる背景を社会的コンテキストの中から理解する。
2	「オリエンテーション 2」彫刻作品の持つ「三次元性」と「素材」について考える。
3	「キリスト教概説」姉妹宗教と言われるユダヤ教、キリスト教、イスラム教の関連を考え、その中で何故キリスト教は生まれなくてはならなかったのか、すなわち、神はキリストを通じてどのように人々を救済しようとしたのかを理解する。その中で「ゴルゴタ」や「受肉」の意味も解説される。
4	「アンドレア・ピサーノ《フィレンツェ洗礼堂青銅扉》1」 フィレンツェの街の作りをその発展史の中に理解する。「洗礼者聖ヨハネの物語」の典拠を追いながら、それがアンドレア・ピサーノの作品でどのように表現されているかを具体的に追跡する。《キリストの洗礼》までを扱う。
5	「アンドレア・ピサーノ《フィレンツェ洗礼堂青銅扉》2」 同じ連作の《ヘロデの前の洗礼者聖ヨハネ》以降を扱う。美德の擬人像について理解する。また、サロメの図像が時代によっていかに変容するかを考える。
6	「1401年のコンクール」同コンクールで最後まで選考に残ったフィリッポ・ブルネッレスキとロレンツォ・ギベルティの《イサクの犠牲》を比較し、二人の作家の持つ造形傾向の違いを認識する。作品の中に援用された古代作品について学び、「ルネサンス」という言葉の持つ意味を再認識する。
7	「ギベルティ作フィレンツェ洗礼堂青銅扉《キリストの生涯》1」 コンクールの結果、青銅扉を制作したロレンツォ・ギベルティの連作を一点ずつ検証し、そこに込められたギベルティ芸術の洗練を理解する。《ゲッセマネ(橄欖山での祈り)》までを扱う。
8	「ギベルティ作フィレンツェ洗礼堂青銅扉《キリストの生涯》2」 ロレンツォ・ギベルティの連作を一点ずつ検証し、そこに込められたギベルティ芸術の洗練を理解する。《ゲッセマネ(橄欖山での祈り)》から《ペンテコステ(聖霊降臨)》までを扱う。四教会博士、四福音書記者についても理解する
9	「ギベルティ作フィレンツェ洗礼堂青銅扉《天国の門》1」 ギベルティが続いて制作した所謂《天国の門》に表現された旧約聖書の物語を、典拠を読みながら《エサウとヤコブの物語》まで追う。
10	「ギベルティ作フィレンツェ洗礼堂青銅扉《天国の門》2」 所謂《天国の門》に表現された旧約聖書の物語を、典拠を読みながら《ソロモンとシバの女王の会見》まで追う。
11	「ヤコポ・デラ・クエルチャ 1」 フィレンツェとは異なる文化環境を持つシエナの彫刻家ヤコポ・デラ・クエルチャの前半生を追い、フィレンツェとの違いを認識する。
12	「ヤコポ・デラ・クエルチャ 2」 ヤコポ・デラ・クエルチャの後半生、特にボローニャ、サン・ペトロ・ニオ聖堂の《中央扉の浮彫》とシエナ、洗礼堂の《洗礼盤》を学び、ミケランジェロに強い影響を与えたこの作家を理解する。
13	「ドナテッロ 1」15世紀最高の彫刻家と考えられたドナテッロの前半生を、フィレンツェ、パルジェッロ国立美術館の《聖ゲオルギウス》まで追う。
14	「ドナテッロ 2」ドナテッロ中期の作品群を学び、彼の芸術の革新性を理解する。
15	「ドナテッロ 3」1443 - 1454年のパドヴァ滞在中の作品を概観し、ヴェネト地方の彫刻にドナテッロが与えた大きな影響を理解するとともに、フィレンツェ共和国帰国後の晩年の作品を学ぶ。
16	「15世紀のフィレンツェの彫刻工房 1」 15世紀フィレンツェ共和国で活動したデラ・ロブビア工房、ロッセリーノ工房などの作品を学ぶ。
17	「15世紀のフィレンツェ彫刻工房 2」 ミーノ・ダ・フィエーゾレとフィレンツェの肖像彫刻について学ぶ。

18	「15 世紀のフィレンツェ彫刻工房 3」 イル・ヴェルロッキオ工房、デル・ポツライウオーロ工房について学ぶ。
19	「ミケランジェロ 1」 ミケランジェロ・ブオナルローティの作品を、特に古代作品との関連で解説する。第一回は著名な第一の《ピエタ》までを扱う。
20	「ミケランジェロ 2」 ミケランジェロ・ブオナルローティの作品を、特に古代作品との関連で解説する。第二回は続く時代を《ドーニ家の丸板絵》までを扱う。
21	「ミケランジェロ 3」 ミケランジェロ・ブオナルローティの作品を、特に古代作品との関連で解説する。第三回は続く時代を《システィナ礼拝堂天井画》までを扱う。
22	「ミケランジェロ 4」 ミケランジェロ・ブオナルローティの作品を、特に古代作品との関連で解説する。第四回は続く時代を作家の死まで扱う。
23	「《ラオコーン》の発見」1506 年 1 月 14 日にローマで発見された《ラオコーン》が同時代の作家に与えた影響を、作品を通じて理解する。
24	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 1」 アントニオ・リッツォとピエトロ・ロンバルドの作品について学び、15 世紀半ばまでのヴェネツィア共和国にフィレンツェ彫刻の建築的要素がどのように流入したかを理解する。
25	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 2」 ピエトロ・ロンバルドの二人の息子、トゥツリオとアントニオが 15 世紀末から 16 世紀にかけて、ヴェネツィア共和国で最も優れた彫刻作品を残すことになる。今回はトゥツリオの軌跡を追う。
26	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 2」トゥツリオ・ロンバルドの第二回。
27	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 3」アントニオ・ロンバルドの作品について概説する。
28	「15 世紀のヴェネツィア彫刻 4」アントニオ・ロンバルドの第二回。
29	「螺旋の展開 1」 古代ギリシア時代からミケランジェロを経て、ジャン・ロレンツォ・ベルニーニに至る造形課題の認識を追う。
30	授業のまとめと筆記の学年末試験

科目名	西洋美術史	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	木村 和実				
クラス名					
授業目的と到達目標					
「人間にとって芸術とは何か」という根源的な問題を念頭におきながら、人類の創造した豊かなイメージの文化を読み解いてゆく。西洋美術の作品の解釈を学ぶことを通して、美術についての知識と理解を、そして何よりも芸術への愛を深めたいと願う。					
授業概要					
対面授業西洋の美術作品を読み解く上で必須の教養とも言うべきギリシア・ローマ神話や聖書の物語を作品を通して紹介してゆく。さらに個々の作品に表現された植物や動物などのモチーフの象徴性を詳細に解き明かしてゆきたい。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
各自で美術館を訪れてオリジナルの作品に触れる機会を増やしてほしい。 出席重視。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート(後期)			70		
平常点(授業態度)			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	必要に応じて適宜指示する。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクション～絵を聴く、絵を読む～ * 授業の進め方
2	* 絵画の謎を解く(1)～神話画～
3	* 絵画の謎を解く(2)～アレゴリーの迷宮1～
4	* 絵画の謎を解く(3)～アレゴリーの迷宮2～
5	* 絵画の謎を解く(4)～マネリスム～
6	* 絵画の謎を解く(5)～黄金の林檎～
7	* 絵画の謎を解く(6)～絶世の美女～
8	絵画の謎を解く(7)～トロイア戦争1～
9	絵画の謎を解く(8)～トロイア戦争2～
10	ギリシア神話の世界(1) * 創世と神々の系譜
11	ギリシア神話の世界(2) * オリュンポスの神々～最高神ゼウス～
12	ギリシア神話の世界(3) * オリュンポスの神々～ゼウスの正妻ヘラと海神ポセイドン～
13	ギリシア神話の世界(4) * オリュンポスの神々～豊穡の女神デメテルと冥界の王ハデス～
14	ギリシア神話の世界(5) * オリュンポスの神々～竈の女神ヘスティアと知恵と戦いの女神アテナ～
15	ギリシア神話の世界(6) * オリュンポスの神々～太陽神アポロンと月の女神アルテミス～
16	ギリシア神話の世界(7) * オリュンポスの神々～愛と美の女神アプロディテアプロディテと軍神アレス～
17	ギリシア神話の世界(8) * オリュンポスの神々～鍛冶の神ヘパイストスと伝令神ヘルメス、酒神デュオニソス～
18	シンボルの宇宙を読む(1) * 象徴の森の果物～りんごの秘密1～
19	シンボルの宇宙を読む(2) * 象徴の森の果実～りんごの秘密2～
20	シンボルの宇宙を読む(3) * 象徴の森の果実～葡萄とイチジクの秘密～
21	シンボルの宇宙を読む(4) * 象徴の森の果実～ざくろとさくらんぼの秘密～
22	シンボルの宇宙を読む(5) * 象徴の森の花々～薔薇の秘密1～
23	シンボルの宇宙を読む(6) * 象徴の森の花々～薔薇の秘密2～
24	シンボルの宇宙を読む(7) * 象徴の森の花々～百合の秘密～
25	シンボルの宇宙を読む(8) * 象徴の森の花々～水仙とアイリスの秘密～
26	シンボルの宇宙を読む(9) * 象徴の森の花々～薊と向日葵の秘密～
27	シンボルの宇宙を読む(10) * 象徴の森の動物たち～蛇・鳥・犬・猫など～
28	シンボルの宇宙を読む(11) * 象徴としての虫たち～蝸牛・蠅・蝶など～
29	シンボルの宇宙を読む(12) * 象徴としての静物～17世紀オランダの静物画の世界～
30	レポート作品のスライドショーと後期の授業のまとめ

科目名	図学	年次	1	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	壺井 勸也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
図学を通して知るデザインの楽しさとおもしろさを具体的に理解し、世界各地に存在する建築構造物はもとよりビジュアルに表現されたデザイン商品からプロダクトデザイン・インダストリアルデザインに応用された製品やファッション界における楽しいグッズに至るまでのデザイン力をつける。					
授業概要					
対面授業で行う。前期(具現化された形態を基に図学の基本を習得する)後期(具体的に表現方法を理解し作図による演習をする)造形作家、公共事業、モニュメントを制作するにあたり、完成予想図を作成する技術を習得する。高校美術・工芸教諭としての基礎知識、作図、画法の習得が必須。以上今日までの職務経験において必要とされる。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
特に後期からの授業においては配布された資料をもとに事前に予習し、理解を深める。講義された内容を反復する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
試験			100		
教科書情報					
教科書1	指導教員による作成教材(後期)				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	古代エジプトに始まる幾何学の理解と学習。
2	古代ギリシャにおける数学を応用した幾何学の説明。
3	古代ローマにおける遺跡に見られる建造物から始まる形態の学習。
4	江戸期における日本の実測図学の歴史を研究。
5	日本における幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。
6	ヨーロッパにおける幾何学紋様を調査し伝統文化の中で息づく図案の面白さを知る。
7	生活・文化の中に息づく図学について考察。
8	生活・文化の中に息づく図学について考察。
9	生活・文化の中に息づく図学について考察。
10	生活・文化の中に息づく図学について考察。
11	インテリアデザインに活用された図学の基本。
12	ビジュアルデザインに活用された図学の基本。
13	インダストリアルデザインに活用された図学の基本。
14	コンストラクション・コンポジションの理解。
15	一点透視図法の技法を習得
16	一点透視図法の技法を習得
17	一点透視図法の技法を習得
18	二点透視図法の技法を習得。
19	二点透視図法の技法を習得。
20	二点透視図法の技法を習得。
21	アイソメ投影法の研究。
22	アイソメ投影法の研究。
23	アクソメ投影法の研究。
24	アクソメ投影法の研究。
25	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
26	インダストリアルデザインの中心に船舶及び自動車における作図法の研究。
27	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
28	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
29	建築構造物を実際に表現する力を身につける。
30	自動車のパースを自由課題として提出。

科目名	東洋美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧 朝子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>工芸は一つの分野だけで成り立つのではなく、金工や陶磁器、漆工（それ以外の分野も含むが）などが器形や文様、様式の上で連動しながら展開する。中国工芸の個々の分野を理解するとともに、時代性や他の地域との関係を考える広い視点を持つ。</p>					
授業概要					
<p>東洋美術史について、工芸を中心に学ぶ。中国の代表的な工芸分野には陶磁器、金工、漆工がある。これらは唐・宋時代には時代性を反映して高度に洗練され、東アジアのみならず広範囲にわたって影響を及ぼしている。日本や朝鮮半島など、中国周辺地域の工芸品との比較も行いながら、唐から宋時代にかけての陶磁器、金工、漆器の流れを追うとともに、朝鮮半島の高麗時代の文化と美術について、画像や文献史料を用いて学ぶ内容とする。また仏教における工芸の役割にも言及する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>授業にて紹介する近隣の美術館・博物館などを各自で積極的に参観し、実際に作品を自らの目で見て鑑賞するようにして自主的に内容を深めること。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期試験(最終講義日)			50%		
後期試験(最終講義日)			50%		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

テキストは特に使用しない。参考文献は適宜紹介し、参考資料を授業中に適宜配布する。	
教員実務経験	
美術館学芸員	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	授業の概要・ガイダンス
2	中国工芸のアジアにおける位置付け
3	中国の金工(1)
4	中国の金工(2)
5	中国の金工(3)
6	中国の金工(4)
7	中国の陶磁器(1)
8	中国の陶磁器(2)
9	中国の陶磁器(3)
10	中国の陶磁器(4)
11	中国の漆工(1)
12	中国の漆工(2)
13	中国の漆工(3)
14	中国の漆工(4)
15	まとめ・前期試験
16	高麗史と『宣和奉使高麗図経』
17	高麗時代の文化と美術(金属工芸1)
18	高麗時代の文化と美術(金属工芸2)
19	高麗時代の文化と美術(金属工芸3)
20	高麗時代の文化と美術(陶磁器1)
21	高麗時代の文化と美術(陶磁器2)
22	高麗時代の文化と美術(陶磁器3)
23	高麗時代の文化と美術(漆器1)
24	高麗時代の文化と美術(漆器2)
25	高麗時代の文化と美術(漆器3)
26	工芸の交流史(1)
27	工芸の交流史(2)
28	工芸の交流史(3)
29	工芸の交流史(4)
30	まとめ・後期試験

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	河田 昌之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本美術を知っていますか?一般に、美術は、自然や生活、政治経済や思想、または海外文化の影響などを受けて形成されます。日本の美術も例外ではなく、独自の美意識が作品に投影されています。具体的な作品をとおして、造形の意義や特徴を学び、作品解説ができるほど日本の美術が好きになることを目指します。					
授業概要					
過去に製作され現在も観ることができる日本美術の作品を取り上げ、パワーポイントの画像を提示しながら、講義します。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
講義で取り上げた作品を、できるだけ展覧会に出向いて観賞することを勧めます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学期末試験			50		
レポート(授業中の課題など)			30		
平常の授業態度(出席状況など)			20		
教科書情報					
教科書1	使用しません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	日本美術史入門				
出版社名	平凡社	著者名	河野元昭監修		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	日本美術史を学ぶにあたっての基礎知識や時代区分など
2	縄文時代の美術・・・生活環境、縄文式土器や土偶などの祭祀と美術について
3	弥生時代の美術・・・生活環境、弥生式土器や青銅器など、ムラの機能と美術について
4	古墳時代の美術・・・中国との関わり、埴輪、副葬品、古墳壁画など
5	飛鳥時代の美術 1・・・仏教伝来、仏像、伽藍、寺院など、仏教美術について美術につて
6	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて
7	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて
8	奈良時代後期(天平)の美術 1・・・法隆寺、仏像など、仏教美術について
9	奈良時代後期(天平)の美術 2・・・正倉院の仏教美術や工芸品を中心に
10	平安時代前期(貞観)の美術 1・・・空海と最澄、真言宗と天台宗など、密教美術について
11	平安時代前期(貞観)の美術 2・・・三筆と三蹟(さんせき)など、書について
12	平安時代後期(藤原)の美術 1・・・浄土教、J道長と紫式部など、王朝の美術工芸について
13	平安時代後期(藤原)の美術 2・・・源氏物語絵巻、伴大納言絵巻、鳥獣人物戯画など
14	鎌倉時代の美術 1・・・源頼朝と鎌倉、武家文化、似絵(にせえ)など、美術の新生面
15	鎌倉時代の美術 2・・・運慶、快慶、寺院建築など、仏教美術について
16	鎌倉時代の美術 3・・・藤原定家と古典、物語絵、書など、文芸と美術について
17	室町時代の美術 1・・・足利将軍家と中国美術コレクションなど、外来文化の需要について
18	室町時代の美術 2・・・禅宗、雪舟、水墨画、墨蹟(ぼくせき)など、禅林の美術について
19	室町時代の美術 3・・・お伽草子絵など、庶民の美術について
20	桃山時代の美術 1・・・信長、秀吉と戦国武将の美意識、城郭建築など、武士と美術に
21	桃山時代の美術 2・・・千利休、茶の湯など、茶の美術について
22	桃山時代の美術 3・・・金箔と障壁画や屏風など、狩野派と町絵師について
23	江戸時代前期の美術 1・・・俵屋宗達と本阿弥光悦など、装飾と書のコラボの美について
24	江戸時代前期の美術 2・・・南蛮美術と文化など、異国の文物への関心と流行について
25	江戸時代前期の美術 3・・・四条河原遊楽図、歌舞伎図など初期風俗画について
26	江戸時代中期の美術 1・・・尾形光琳と乾山など、琳派の美術について
27	江戸時代中期の美術 2・・・池大雅、与謝蕪村などの文人画と円山応挙などの写生画派について
28	江戸時代後期の美術 1・・・鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重など、浮世絵について
29	江戸時代後期の美術 2・・・長沢蘆雪、伊藤若冲、曾我蕭白など、異風の絵師たちについて
30	近代の美術・・・明治期以降の美術の動向

科目名	製図実習	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	実習		
教員名	田中 雅文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
アイデア相互理解、また製作を依頼(受注)する場合、その伝達には正確な図面が必須である。基本的な製図法、陶磁器製図における図示法の理解と修得を図る。					
授業概要					
基本的な製図法である正投影法の理解に始まり、図面を正しく読む・作図の手順を知る・図面の様式等を知る、更に陶磁器慣例図示法の理解を得る事により、陶磁器デザイン段階での正しい考察力を身に付ける。また作図の中で、陶磁器の様々な機能に沿ったデザインを考察し、各形態に応じた図形・寸法の表し方を修得する。これらの技術を習得することにより、将来ものづくりの現場で第三者とのアイデアの相互理解が深まり、より多方面での創作活動の発展を目指す。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
身の回りにある「やきもの」の形状や厚みなど図面を書く観点から観察する					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題提出			80		
受講姿勢			20		
教科書情報					
教科書1	「製図実習」セラミックコース				
出版社名	大阪芸術大学	著者名	南 和伸		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
{田中雅文 Official site,http://tanakamasafumi.sakura.ne.jp/index.html}					
特記事項					
陶磁器制作を専門とすることで素材の特質を活かしたより実践的な陶磁器製図、伝達方法を指導する。					

教員実務経験	
陶芸作家／陶磁器デザイナー。国内外での作品発表、展覧会、企業タイアップによる製品制作など。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	課題説明。陶芸における製図の概要、準備物等の説明
2	製図の機能と役割(見やすい図面を作成する基本的な考え方) 製図用具の種類と使用法
3	図面の大きさ様式、線の種類、文字の書き方 正投影法の理解、第一角法と第三角法の比較
4	湯呑みの製図 1 完成品からの採寸
5	湯呑みの製図 2 完成品からの作図
6	湯呑みの製図 3 湯呑みをデザインする
7	湯呑みの製図 4 製図作業
8	湯呑みの製図 5 製図作業
9	湯呑みの製図 6 完成
10	カップ&ソーサーの製図 1 デザインの考察
11	カップ&ソーサーの製図 2 製図作業
12	カップ&ソーサーの製図 3 製図作業
13	カップ&ソーサーの製図 4 製図作業
14	カップ&ソーサーの製図 5 製図作業
15	カップ&ソーサーの製図 6 完成
16	陶磁器慣例図示法、寸法補助記号、円弧の寸法記入法
17	ティーポットの製図 1 デザインの考察
18	ティーポットの製図 2 製図作業
19	ティーポットの製図 3 製図作業
20	ティーポットの製図 4 完成
21	1面型鑄込み カップの制作 1 デザインの考察
22	1面型鑄込み カップの制作 2 図面作成
23	1面型鑄込み カップの制作 3 原型用ゲージの作成
24	1面型鑄込み カップの制作 4 石膏原型制作
25	1面型鑄込み カップの制作 5 石膏原型制作
26	1面型鑄込み カップの制作 6 使用型制作
27	1面型鑄込み カップの制作 7 使用型制作
28	1面型鑄込み カップの制作 8 泥漿制作
29	1面型鑄込み カップの制作 9 鑄込み作業
30	1面型鑄込み カップの制作 10 生地完成 総括

科目名	デザイン史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	瀧本 雅志				
クラス名					
授業目的と到達目標					
近代から現代までのデザインの変遷を概観する。デザインを、新たに強く問題化したり、大きく変容させたり、加速して前進させたり、逆行もしくは反復した歴史的に重要な事例を、リプレイしてゆく。それはまた、デザインという視点から、技術・メディア・社会・文化・精神等の史の変容を迎える試みともなる。そうしたデザインの歴史や、デザインと歴史との関係について、基礎的な理解を得ること。また、デザインへの批評眼や理論の体得が、目標となる。					
授業概要					
【対面授業】デザインとは何かについて、まず(再)問題提起を行う。そして、近代という時代性のなかで、デザインが重要な問題として浮上してきた経緯を確認する。その後、それがどのような曲折を経つつ、進展していったかを現代までフォロー。最後に、近代とポスト近代の双方の事後的ステージに入った現代において、デザインがいかなる新たな変質と可能性を示しつつあるかを考察する。以上を、図版や映像資料を適宜活用しながら、進めてゆく。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
明るく楽しく元気に受講して下さい。授業内のみで「学習」を受動的に完結させるのではなく、自ら積極的に「学外」(本、図版、モノ、インターネット、まち、等々)へアクセスして、自己を活性化させてゆくこと。なお、授業への理解を深めるために、世界史の基礎知識をメンテナンスすることも必要とされる。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
期末テスト(筆記)			80		
平常点			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	世界デザイン史				
出版社名	美術出版社	著者名	阿部公正ほか		
参考書名2	デザイン史入門				
出版社名	晃洋書房	著者名	T.ハウフェ著 藪亨訳		
参考書名3	デザインの小さな哲学				
出版社名	鹿島出版会	著者名	V.フルツサー著 瀧本雅志訳		
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			

参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	「イントロダクション: デザインとは何か?」: 「デザイン」とは何かについて、デザイン史やデザイン論の主要な著書をいくつか紹介しながら、(再)問題提起してゆく。この問いの「解答」を固定的に示すのではなく、「デザイン」が実に重要な「近代」の「問題」となって登場することをまずは確認してみたい。アートとデザインの違い(の有無)についても、考察する。
2	「近代デザイン前史」: 産業化の勃興以前に、「デザイン」という問題意識は存在したかどうかを考察する。フランス革命前のファッション、シェーカー派の家具、ウェッジウッドの陶器等が、その中心として検討される。
3	「産業革命と万国博覧会」: 技術の発達、いかに産業に応用され、それがデザインの生産や流通や消費条件を大きく変えていったかを振り返る。また、デザインの展示という概念を加速させた万国博覧会の 19 世紀における意義を、パッサージュやデパートの空間デザインとあわせて捉えてゆく。
4	「ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動」: ウィリアム・モリスを中心に、そこから、ひとつの近代運動としてのデザイン活動がテイクオフしていった意義を顧みる。また、モリスによる壁紙・ステンドグラス・家具・金工・書物等について具体的に検討する。
5	「マッキントッシュとグラスゴー派」: アーツ・アンド・クラフツ運動が唯美化したグラスゴー派のデザインを取り上げる。とりわけ、特異な才能を発揮したマッキントッシュの作品にスポットをあて。彼に見られるモダニズムの徴候についても確認を行う。
6	「アール・ヌーヴォー①」: 19 世紀末のヨーロッパに登場したアール・ヌーヴォーの全体像をまずは捉える。続けて、ブリュッセル、パリにおけるその具体例を概観してゆく。注目される固有名は、アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド、エクトール・ギマル、ミュシャ、ルネ・ラリック等。ボナールら、美術史との交錯にも目を向ける。
7	「アール・ヌーヴォー②」: フランスのナンシー、イギリス、アメリカに登場したアール・ヌーヴォーを検討する。とりわけ重要性をもつ人物は、オーブリー・ビアズリー、エミール・ガレ、テイファニー等となるだろう。
8	「ユーゲント・シュティルとダルムシュタット芸術家村」: アール・ヌーヴォーと同時期にドイツに現れた新傾向(ドイツでのアール・ヌーヴォー)について見てゆく。雑誌では、『パン』や『ユーゲント』の意義、またユートピア的なデザイン活動が実践されたダルムシュタット芸術家村コロニーの可能性を検討する。
9	「ウィーン分離派とウィーン工房」: 過去の様式からの訣別＝分離を宣言し、1897 年にウィーンでクリムトを中心に結成された分離派の活動を振り返る。また、オットー・ヴァグナーの建築、ヨーゼフ・ホフマンとコロマン・モーザーが主導したウィーン工房の製品を検討する。さらには、『装飾と犯罪』等の文章で、強烈な装飾批判を展開したアドルフ・ロースにも注目してゆく。
10	「モダニズム建築の先駆者たちとドイツ工作連盟」: 帝国ホテルや芦屋川の旧・山邑邸などで、日本とも馴染みの深いアメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトに見られる早初のモダニズムのベクトルを検討する。また、近代運動としてのデザインを、より産業生産へ適合させる改革を進めた活動のひとつであるドイツ工作連盟について見てゆく。
11	「バウハウス①」: トータルな近代デザインの学校にして、その最大の実験場ともなったバウハウスは、1919 年にワイマールに創立された。その設立当初の状況や意図、実際の運営プログラムはどうであったかに注目する。
12	「バウハウス②」: デッサウに移転した 1925 年以降の第 2 期、1932 年～33 年のベルリンでの第 3 期で、バウハウスがどう変容していったかを、具体的なデザインの成果を見ながら考察する。また、アメリカでのその活動の継続や、戦後のウルム造形大学についても概説する。
13	「デ・ステイル／表現主義／アール・デコ」: デ・ステイルは、1917～31 年にかけてオランダのドゥースブルフが刊行した雑誌名、及びそれに関わった人物たちのグループ。モンドリアンやファン・デル・レックの抽象絵画との関わりや、リートフェルトの家具や建築についても理解の端緒を開く。

14	「ロシア・アヴァンギャルドとデザイン」: 革命前後のロシアの前衛運動について、生活変革のためのデザインという視点から、その結果的な挫折に至るまでを追ってゆく。ロシア構成主義のみならず、絶対主義の非デザインについても、その思想に触れてゆく。
15	「アール・デコ」: アール・デコとは、1925年にパリで開かれた博覧会に顕著な装飾スタイルをいう。アール・ヌーヴォーとの違いに注目しながら、それらが1920年代のデザインでいかなる意味を持ったかを、ル・コルビュジエの言説や表現主義とも比較しながら、振り返る。
16	「印刷メディアとグラフィック・デザインの進展」: 左記の問題について、グーテンベルクの活版印刷術以降の変遷を概観しながら、特に19世紀末から第一次大戦前までのベル・エポック期の成果に焦点を当てる。
17	「前期の内容のまとめ+前期の復習テスト」: 後期2週目にあたるこの回の授業では、前期の内容を確認し、またあわせて、後期3週目以降の授業につなげるためのテストを行う。
18	「インダストリアル・デザイナーの登場とスタイリング」: インダストリアル・デザインという概念が最初に浮上してくる当時のアメリカのデザイン状況を顧みる。考察されるのは、摩天楼、流線型、メトロポリス、オーガニック・デザイン、レイモンド・ローウィ等。
19	「インターナショナル・スタイルとMoMA」: 1929年に開館し、絵画や彫刻のみならず、写真や映画、ひいては建築や製品のデザインまでもいち早くその対象としたNY近代美術館の功罪を探る。とりわけ、1932年に開催された「近代建築: 国際展」により、いかに近代運動としての建築が、デザインやスタイルの問題に変換されたかを再考する。
20	「50~60年代イタリアとドイツのデザイン」: 第二次大戦による荒廃にも関わらず、またたく間にデザイン大国となったイタリアの戦後20年を検討する。また、やはり敗戦国であるドイツのデザイン面における復興を、1940年代末以降の「ゲーテ・フォルム」の概念や1953年に開学したウルム造形大学に焦点を当てつつ考察する。
21	「アメリカ的生活様式とカリフォルニア・モダン」: 50年代アメリカの家庭の豊かさを演出した諸デザインを見てゆく。また、特にその注目すべき例として、西海岸で展開されたモダニズムの地方変形版としてのカリフォルニア・デザインにスポットをあてる。これについては、イームズ夫妻、ケーススタディ・ハウスの住宅を中心に触れてゆく。また、イームズの映像作品の上映も予定している。
22	「スウィング・ロンドン」: 60年代、ロンドンで大衆的なユースカルチャーが爆発する。ストリート主導のファッションは、モードの都パリさえもリードする勢いを見せる。マリー・クワントのミニスカート、トゥイギー、美容師をヘアデザイナーへ昇格させたヴィダル・サスーン等のデザインに触れる。また、1950年代半ば以降のロンドンでのポップアートが、この時代にどうつながったかも再検証する。
23	「60年代のパリ・ファッション」: スウィング・ロンドンの攻勢に対し、パリのファッションはどのような新たな動きを見せたか。クレージュ、イヴ・サンローラン、ピエール・カルダンを中心に、パリ・モードの変革の方向性をトレースする。
24	「60年代のサウンドデザイン」: 60年代半ば以降、ポップミュージックの新たな可能性が、録音される楽曲のサウンドデザインというかたちで大いに探求されるようになる。それに先立つ現代音楽の空間意識、マーティン・デニーのサウンドスケープ、フィル・スペクターの音の壁を検証。そして60年代に至ってのビーチボーイズの「ペット・サウンズ」や、ビートルズの「Sgt ペッパーズ」等の意義を確認する。
25	「アンビルトとグラフィック・デザインとしての建築」: 建築家の設計=デザイン活動は、建物を現実に建てることだけにあるのではない。むしろ、グラフィックやイメージや情報のデザインとしての建築こそが、未来へ向けた都市や建築の自由なビジョンを提示しうる。そうした考えのアンビルトの思想が、60年代に活発化する。アーキグラム、ロバート・ヴェンチャー、メタボリズム、スーパーグラフィックス等のデザインを振り返る。
26	「BIBAとクラシカル・エレガンス」: 近代のキーワードは、「進化」や「進歩」や「新しさ」だったはずだ。しかし、60年代後半、過去をノスタルジックに振り返ることが「新しさ」となる逆説が、大衆的なレベルでファッションや映画等に生じてくる。そうした転回について、主にロンドンの伝説的なブランドBIBAのデザインを顧みながら、考察する。
27	「アンチ・デザイン」: 70年代には、慣例的なグッド・デザインや良き趣味を嫌うアンチ・デザインが、パンクミュージックともクロスしつつ台頭する。また、90年代前半には、汚いプアなデザインとしての「グランジ」も注目される。それらの効果を、音楽も参照しながら検討してゆく。

28	「北歐デザインの可能性」:デンマーク、フィンランド、スウェーデンのデザインの魅力に触れる。アルネ・ヤコブセン、アールト、マリメッコをはじめとするデザインと、それを成立させた条件について考える。
29	「70年代以降の建築デザイン」:70年代になると建築では、モダニズムのデザインに意図的・戦略的に抗うポストモダンのデザインが隆盛を極めてゆく。歴史的引用、多様で表層的な装飾、イメージの過剰さに走るそれらのデザインの特徴を確認するとともに、それ以降の脱構築のデザインや髣建築、ライト・コンストラクションについても考察してゆく。
30	「グローバリゼーション下の新たなるデザイン概念」:、グローバルなデジタル情報資本主義の現代に、デザインはいかなる概念や営みに変質してきているのか？ デザインのこれからの可能性も考えるべく、ブルース・マウやレム・コールハースといった新しいタイプのデザイナーの活動をケーススタディする。また、アイコン建築やビルバオ・エフェクト、BIMについても見てゆく。

科目名	美術特論 I	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	高瀬 博文				
クラス名					
授業目的と到達目標					
この授業は次の事柄を通して自由な精神と創造性を養うのを目的とする。前期:アンフォルム(不定形)の観点から現代美術を考える後期:徹底操作／二重の転倒の観点から美術作品を考える					
授業概要					
対面授業現代美術は単に見えるものを問題としているのではなく、見えるもののリアリティが成立するときに忘却されてしまう何かを問題にしていると言える。それは見えるものの身体であるが、見えないものである。しかしその見えないものは見えるものを通してしか提示しえないところに大きな困難があるだろう。又そこに面白さもある。授業ではこうした観点から現代美術を理論的に考える。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
しっかりと授業に出席し、授業での話と教科書によって理解を深めて下さい。板書を行いますので、自分のノートに要点を写して下さい。教科書がないと受講に支障が出る可能性がありますので、必ず購入しておいて下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業中のスタンプ獲得数による)			50%		
テスト(学年末に一回)			50%		
教科書情報					
教科書1	造形原理				
出版社名	大阪芸術大学	著者名	高瀬博文		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	イントロダクション:なぜ美術が存在するのか
2	アンフォルムとは何か(ジョルジュ・バタイユ)
3	アンフォルムと水平性1.古典美術～垂直性 vs.現代美術～水平性
4	アンフォルムと水平性2. ジャクソン・ポロックのアクションペインティング
5	アンフォルムと水平性3. ポロックによる無意識の表現
6	アンフォルムと水平性4. ポロック以降の水平性の表現(ウォーホルなど)
7	アンフォルムと視線1. 視線とは何か(対象 a としての視線)
8	アンフォルムと視線2. シンディ・シャーマンの作品における視線の現れ
9	アンフォルムと水平性3. エドゥワール・マネ、フリードリッヒ・ターナーによる視線の表現
10	アンフォルムと水平性4. 視線を問題化することの意味
11	アンフォルムと無意識1. 無意識の作用とはなにか
12	アンフォルムと無意識2. 無意識の観点から見たマルセル・デュシャンの芸術史の意味
13	アンフォルムと無意識3. デュシャンの「彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁さえも」
14	アンフォルムと無意識4. その他の作家における無意識の問題化をめぐって
15	前期まとめ
16	ジークムント・フロイトの考える強迫反復と徹底操作
17	「残酷な神が支配する」(萩尾望都)などにみる強迫反復と徹底操作
18	徹底操作としての美術作品の制作
19	絵画におけるエネルギー解放論的観点 vs. 絵画における徹底操作
20	文学作品に見られる徹底操作をめぐって(ステファヌ・マラルメ)
21	イマヌエル・カントの美学思想に現れた徹底操作1.
22	イマヌエル・カントの美学思想に現れた徹底操作2.
23	荒川修作の作品における徹底操作1. (「意味のメカニズム」)
24	荒川修作の作品における徹底操作2. (「Iのための習作」など)
25	バーネット・ニューマンにみられる徹底操作
26	フランシス・ベーコンにおける徹底操作
27	ダニエル・ビュランにみられる徹底操作
28	美術作品の徹底操作＝二重の転倒1. 二重の転倒とは何か
29	美術作品の徹底操作＝二重の転倒2. 二重の転倒がなぜ必要なのか、後期まとめ
30	この一年間の授業内容に関する今後の展望

科目名	ガラス工芸論	年次	2	単位数	4
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	穂吉 学、佐々木 雅浩				
クラス名					
授業目的と到達目標					
ガラス工芸の歴史的変遷、素材としての特徴、技法に至るまで幅広く考察しながら、現代ガラス、将来へのガラスへと結びつけて行く。					
授業概要					
PCプレゼンテーションや動画による講義と、参考作品を実際に手で触って実感してもらいながら授業を進める。学生にはリサーチ発表とレポート課題提出を必須とする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
リサーチ発表			60%		
レポート課題			30%		
積極的な授業態度			10%		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	世界ガラス工芸史				
出版社名	美術出版社	著者名	中山公男 編		
参考書名2	「自分だけの答え」が見つかる 13歳からのアート思考				
出版社名	ダイヤモンド社	著者名	末永 幸歩		
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
佐々木 雅浩 (集中講義担当) 愛知教育大学教授 現代ガラス造形作家である教員が、国内外で広く制作活動と作品発表を行ってきた経験を活かし、美術作品の見方、ガラスの特性、制作技法、将来性について授業する。					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	授業ガイダンス
2	ガラス技法論Ⅰ ガラスの技法と本学の設備について
3	ガラス工芸史Ⅰ 古代
4	ガラス工芸史Ⅱ 中世
5	ガラス工芸史Ⅲ 近代
6	ガラス技法論Ⅱ ガラス(キルンワーク)焼成プロセスについて
7	日本の「うつわ」の歴史
8	日本の美「茶の湯」の発展とその歴史
9	茶道具とガラス
10	生け花とガラス
11	自作品について
12	ガラス工芸史Ⅳ 現代
13	ガラス工芸コース4回生と院生によるプレゼンテーションテーマ:『ガラス私観』
14	リサーチ発表 テーマ:『自分の好きなこと』 15~20分プレゼン発表
15	リサーチ発表 テーマ:『自分の好きなこと』 15~20分プレゼン発表レポート提出: 『工芸または芸術に関する本を読んだの感想』 1000~1500字
16	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅰ ガイダンス
17	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅱ 美術史
18	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅲ 工芸史
19	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅳ 世界ガラス工芸史
20	<集中講義・1日目> 美術作品鑑賞方法Ⅴ 日本ガラス工芸史
21	<集中講義・2日目> 吹きガラスデモⅠ
22	<集中講義・2日目> 吹きガラスデモⅡ
23	<集中講義・2日目> 自作品について
24	<集中講義・2日目> ガラス工芸の現在
25	<集中講義・2日目> ガラス技法論Ⅲ 技法の発展
26	<集中講義・3日目> ガラス材料学
27	<集中講義・3日目> ガラス工業の世界
28	<集中講義・3日目> 制作のための環境づくり
29	<集中講義・3日目> 卒業後の進路紹介
30	<集中講義・3日目> グループワーク・記述試験

科目名	日本美術史	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	河田 昌之				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本美術を知っていますか?一般に、美術は、自然や生活、政治経済や思想、または海外文化の影響などを受けて形成されます。日本の美術も例外ではなく、独自の美意識が作品に投影されています。具体的な作品をとおして、造形の意義や特徴を学び、作品解説ができるほど日本の美術が好きになることを目指します。					
授業概要					
過去に製作され現在も観ることができる日本美術の作品を取り上げ、パワーポイントの画像を提示しながら講義します					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
講義で取り上げた作品を、できるだけ展覧会に出向いて観賞することを勧めます。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
学期末試験			50		
レポート(授業中の課題など)			30		
平常の授業態度(出席状況など)			20		
教科書情報					
教科書1	使用しません。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	日本美術史入門				
出版社名	平凡社	著者名	河野元昭監修		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	日本美術史を学ぶにあたっての基礎知識や時代区分など
2	縄文時代の美術・・・生活環境、縄文式土器や土偶などの祭祀と美術について
3	弥生時代の美術・・・生活環境、弥生式土器や青銅器など、ムラの機能と美術について
4	古墳時代の美術・・・中国との関わり、埴輪、副葬品、古墳壁画など
5	飛鳥時代の美術 1・・・仏教伝来、仏像、伽藍、寺院など、仏教美術について美術につて
6	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて
7	飛鳥時代の美術 2・・・高松塚古墳、工芸品など、海外美術との関わりについて
8	奈良時代後期(天平)の美術 1・・・法隆寺、仏像など、仏教美術について
9	奈良時代後期(天平)の美術 2・・・正倉院の仏教美術や工芸品を中心に
10	平安時代前期(貞観)の美術 1・・・空海と最澄、真言宗と天台宗など、密教美術について
11	平安時代前期(貞観)の美術 2・・・三筆と三蹟(さんせき)など、書について
12	平安時代後期(藤原)の美術 1・・・浄土教、J道長と紫式部など、王朝の美術工芸について
13	平安時代後期(藤原)の美術 2・・・源氏物語絵巻、伴大納言絵巻、鳥獣人物戯画など
14	鎌倉時代の美術 1・・・源頼朝と鎌倉、武家文化、似絵(にせえ)など、美術の新生面
15	鎌倉時代の美術 2・・・運慶、快慶、寺院建築など、仏教美術について
16	鎌倉時代の美術 3・・・藤原定家と古典、物語絵、書など、文芸と美術について
17	室町時代の美術 1・・・足利将軍家と中国美術コレクションなど、外来文化の需要について
18	室町時代の美術 2・・・禅宗、雪舟、水墨画、墨蹟(ぼくせき)など、禅林の美術について
19	室町時代の美術 3・・・お伽草子絵など、庶民の美術について
20	桃山時代の美術 1・・・信長、秀吉と戦国武将の美意識、城郭建築など、武士と美術に
21	桃山時代の美術 2・・・千利休、茶の湯など、茶の美術について
22	桃山時代の美術 3・・・金箔と障壁画や屏風など、狩野派と町絵師について
23	江戸時代前期の美術 1・・・俵屋宗達と本阿弥光悦など、装飾と書のコラボの美について
24	江戸時代前期の美術 2・・・南蛮美術と文化など、異国の文物への関心と流行について
25	江戸時代前期の美術 3・・・四条河原遊楽図、歌舞伎図など初期風俗画について
26	江戸時代中期の美術 1・・・尾形光琳と乾山など、琳派の美術について
27	江戸時代中期の美術 2・・・池大雅、与謝蕪村などの文人画と円山応挙などの写生画派について
28	江戸時代後期の美術 1・・・鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重など、浮世絵について
29	江戸時代後期の美術 2・・・長沢蘆雪、伊藤若冲、曾我蕭白など、異風の絵師たちについて
30	近代の美術・・・明治期以降の美術の動向

科目名	デザイン	年次	3	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	村山 利幸				
クラス名	デザイン				
授業目的と到達目標					
デザインの役割を理解し、基礎となる平面構成・色彩構成及び視覚伝達の方法を、課題を通じて学習する					
授業概要					
課題はブックデザイン・企業・商品のブランディング・演出などを企画・作成しデザインしていきます。それら制作項目の中にあるグラフィックの要素であるロゴマークやタイポグラフィ、パッケージアイデア、広告アイデアなどをラフスケッチから制作。デザインの役割である伝える・効果的に表現するを習得する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
それぞれの課題において 事前にブックデザイン・ポスターデザインなど表現事例を調べ、観察。そのデザインの目的を考察する					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
ビジュアル表現、技術力					
プレゼンテーション					
課題への取り組み、受講姿勢					
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
参考書はないが、それに変わるプリントを配布する。					
教員実務経験					
グラフィックデザイナー、デザイン事務所主宰・(社)日本グラフィックデザイナー協会会員					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	デザインの役割を説明課題-1◎平面構成-1 タングラム。タングラムの作成
2	課題-2◎平面構成-2 ユニットによる構成●作成
3	◎平面構成-2 ユニットによる構成●作成 1
4	◎平面構成-2 ユニットによる構成●作成 2
5	課題-3◎平面構成-3 面の分割・構成●作成 1
6	◎平面構成-3 面の分割・構成●作成 2
7	課題-4◎平面構成-3 面の分割・構成・応用ポスター制作●作成 1
8	課題-4◎平面構成-3 面の分割・構成・応用ポスター制作●作成 2
9	課題-4◎平面構成-3 面の分割・構成・応用ポスター制作●作成 3
10	課題-5◎ブック・デザイン課題説明・アイデアラフ作成
11	◎ブック・デザイン-2・アイデアラフ提出 ・表紙デザイン・表紙イメージ作成 ・タイトルロゴ作成
12	◎ブック・デザイン-3・表紙・イメージビジュアル作成 -1
13	◎ブック・デザイン-4・表紙・イメージビジュアル作成 -2
14	◎ブック・デザイン-5・表紙・イメージビジュアル作成 -3
15	◎ブック・デザイン-5・本文デザイン・6~8P 作成
16	◎ブック・デザイン-6・本文デザイン・6~8P 作成
17	課題-6◎文字のデザイン-1 伝えるために生まれた文字のデザイン意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン文字のデザインカレンダーを作成
18	◎文字のデザイン-2 伝えるために生まれた文字のデザイン意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン文字のデザインカレンダーを作成
19	◎文字のデザイン-3 伝えるために生まれた文字のデザイン意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン文字のデザインカレンダーを作成
20	◎文字のデザイン-4 伝えるために生まれた文字のデザイン意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン文字のデザインカレンダーを作成
21	◎文字のデザイン-5 伝えるために生まれた文字のデザイン意味やイメージから効果的に伝わる文字のデザイン文字のデザインカレンダーを作成
22	課題-7◎ブランディング・デザイン-1・ネーミング・ロゴタイプ マークコンセプトに基づいてアイテムのデザイン展開 作成・パッケージデザイン・広告・WEB・販促ツール ETC
23	◎ブランディング・デザイン-2 各ツールデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
24	◎ブランディング・デザイン-3 各ツールデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
25	◎ブランディング・デザイン-4 各ツールデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
26	◎ブランディング・デザイン-5 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
27	◎ブランディング・デザイン-6 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
28	◎ブランディング・デザイン-7 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
29	◎ブランディング・デザイン-8 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成
30	◎ブランディング・デザイン-9 それぞれのデザインをコンセプトに基づいて展開 ・作成

科目名	工芸特論Ⅱ	年次	3	単位数	4
授業期間	2024年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	藤田 浩明				
クラス名					
授業目的と到達目標					
過去の技術を調査研究することによって、「つくる」「さぐる」「まもり、つたえる」ための知識と手法を実例を通して身につけることを目的とし、「歴史」「科学」「文化財」という観点からのアプローチを学ぶ。					
授業概要					
対面授業。1. 古代から現代に至る各種材料を用いた工芸品の歴史や技術に関わる講義 2. 埋蔵文化財や美術工芸品に対する文化財調査の手法や成果に関する講義 3. 埋蔵文化財や美術工芸品に対する文化財保存の実際についての講義と体験担当教員はおもに埋蔵文化財の保存処理、修復に携わるとともに、さまざまな材質で製作された博物館・美術館資料等の調査や保存もおこなってきた。文化財保存科学分野では様々な資料・材質に対して特化した専門家がその任に当たっている。この授業では担当教員だけでなく、各分野の最前線で活躍している作家や保存科学者、修復家を招いて講義や体験も行なう。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。・授業中のPCやタブレット端末等電子機器の使用、撮影、録音は禁止。使用の必要がある場合は事前に申し出ること。・配布資料や画像等の扱い(2次加工や他者への公表など)に高い意識を持つこと。上記の事項を守り、円滑な授業の進行に協力してください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前期 授業への参加態度(毎回のコメントシート含む)			30		
前期末 レポート			20		
後期 授業への参加態度(毎回のコメントシート含む)			30		
後期末 レポート			20		
教科書情報					
教科書1	必要に応じて資料を配付				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	トレハロースを用いた文化財保存の研究と実践				
出版社名	三恵社	著者名	伊藤幸司		
参考書名2	博物館資料保存論				
出版社名	講談社	著者名	石崎武志		
参考書名3	文化財保存科学ノート				
出版社名	近未来社	著者名	沢田 正昭		
参考書名4	文化財のための保存科学入門				
出版社名	角川書店	著者名	岡田文男		
参考書名5	文化財の保存と修復を学ぶ				
出版社名	藝術学舎	著者名	岡田文男		
参考 URL					

特記事項	
先人の創作技術を知り過去の文化を未来に受け継ぐことは、私たちが果たすべき重要な役割のひとつです。それに伴って、美術品・工芸品・文化財を科学的に調査することで材料を知り、その技法を読み解くことは現代の表現者である皆さんにも有用な情報です。最新の調査研究の技術や成果について講義します。	
教員実務経験	
担当教員：大阪市文化財協会保存科学室長担当教員は、文化財保存科学の研究者で日常的に文化財の保存・修復に携わっています。多種多様な文化財の科学的調査方法や保存修復技術についての実務経験を活かし、唯一無二であるみなさんの「作品」をどう守り伝えていくか、具体的な方法や技術を習得できるような授業をします。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	導入-授業の目的と概要、評価方法などについて周知する
2	美術工芸品の保存修復 美術品の調査1-自然科学的手法を用いた構造調査
3	美術工芸品の保存修復 美術品の調査2-自然科学的手法を用いた材質分析
4	美術工芸品の伝統的保存方法1-正倉院宝物の保存
5	美術工芸品の保存修復 美術品の調査3-自然科学的手法を用いた資料の観察
6	美術工芸品の保存修復 木材利用の歴史-古代～近代の木材利用方法
7	美術工芸品の保存修復 有機質製品の調査・保存修復1
8	美術工芸品の保存修復 有機質製品の調査・保存修復2
9	美術工芸品の保存修復 有機質製品の調査・保存修復3
10	美術工芸品の保存修復 有機質製品の調査・保存修復4
11	美術工芸品の保存修復 ガラス工芸品の保存修復技術
12	美術工芸品の保存修復 漆芸品の保存・修復
13	美術工芸品の保存修復 有機質製品の調査・保存修復5
14	美術工芸品の保存修復 陶芸品の保存修復技術
15	海外の文化財保存科学事情1
16	前期授業の補足説明 提出レポート評価
17	美術工芸品の伝統的保存方法2 装潢修理技術①
18	美術工芸品の伝統的保存方法3 装潢修理技術②
19	美術工芸品の保存修復 石造品の修復
20	美術工芸品の伝統的保存方法4 仏像修理技術
21	美術工芸品の保存修復 金属工芸品の保存修復技術1
22	美術工芸品の保存修復 金属工芸品の保存修復技術2
23	美術工芸品の保存修復 武器・武具等の製作・修復技術 1
24	美術工芸品の保存修復 武器・武具等の製作・修復技術2
25	美術工芸品の保存修復 遺跡・遺構の保存技術
26	美術工芸品の保存修復 染織品の保存修復技術
27	美術工芸品を生物被害からまもる技術
28	美術工芸品を災害からまもる技術
29	海外の文化財保存科学事情2
30	後期授業のまとめ

科目名	工芸 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2024 年度 後期	形態	演習		
教員名	長谷川 政弘、水野 年彦				
クラス名	17以前生・金属工芸クラス				
授業目的と到達目標					
金属工芸において重要である金属素材の特性を理解し、それに応じた加工技法(切る、曲げる、接合)や表現方法を学びます。それに加え、造形性だけではなく「使える事」の大切さも考慮しながら制作する事を学びます。金属工芸における基本的な「彫金技法」「鍛金技法」を、制作を通して理解し習得する事を目標とします。					
授業概要					
前半 3 回は「彫金技法」を用いて「真鍮」を素材にトレイを制作します。図柄をデザインし真鍮板に金属用の糸鋸を使って透かし紋様を施しパーツを接合するための半田付けを行います。後半 3 回は「鍛金技法」を用いて「アルミニウム」を素材にお皿やコップ・食器か動物のどちらかを選択して制作します。アルミを火で炙り加工しやし易くし、デザインを元に制作していきます。当て金や金槌を使い「鍛金技法」の基礎を行います。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
私たちはたくさん金属に囲まれて生活しています。それは構造物、機械、道具、美術品、日用品であったりと多種多様に存在しています。それはどんな種類の金属なのか?どんな加工を通して生産されたのか?想像してみてください。授業のなかで発表してもらいます。授業回数が少ないので遅刻、欠席は厳禁。作業ができる服装でのぞむ事。(バーナーや道具を使用します)筆記用具、軍手、ボロ布(綿素材)を持参。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品及び作品構想			60		
授業に取り組む姿勢			40		
教科書情報					
教科書 1					
出版社名		著者名			
教科書 2					
出版社名		著者名			
教科書 3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名 1	金工基礎実習				
出版社名	丸善株式会社	著者名	佐々田美雪/長谷川政弘		
参考書名 2					
出版社名		著者名			
参考書名 3					
出版社名		著者名			
参考書名 4					
出版社名		著者名			
参考書名 5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
https://masaab.sakura.ne.jp					

特記事項	
教員実務経験	
金属造形作家と鋳金作家が豊富な制作経験を活かして様々なタイプの作品に対応した指導をします。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	【対面】1 日目「真鍮トレイ」透かし模様アイデアスケッチ
2	【対面】1 日目「真鍮トレイ」全体の構成
3	【対面】1 日目「真鍮トレイ」展開図の作成
4	【対面】1 日目「真鍮トレイ」厚紙による模型の作成
5	【対面】1 日目「真鍮トレイ」透かし模様を真鍮板に転写
6	【対面】2 日目「真鍮トレイ」糸鋸による本体の透かし作業
7	【対面】2 日目「真鍮トレイ」糸鋸による本体の透かし作業
8	【対面】2 日目「真鍮トレイ」糸鋸による本体の透かし作業
9	【対面】2 日目「真鍮トレイ」機械、工具を使って曲げ加工
10	【対面】2 日目「真鍮トレイ」部品の切り出し、透かし作業
11	【対面】3 日目「真鍮トレイ」本体と部品の半田付け
12	【対面】3 日目「真鍮トレイ」仕上げ(ヤスリ、耐水ペーパー、金属研磨)
13	【対面】3 日目「真鍮トレイ」仕上げ(ヤスリ、耐水ペーパー、金属研磨)
14	【対面】3 日目 合評:学生による作品説明と作品鑑賞
15	【対面】3 日目 合評:教員の講評
16	【対面】4 日目「コップ・鍋」「動物」アイデアスケッチ
17	【対面】4 日目「コップ・鍋」「動物」アイデアスケッチ
18	【対面】4 日目「コップ・鍋」地金の取り方を考える。「動物」ケント紙動物の展開図を考える。
19	【対面】4 日目「コップ・鍋」地金の取り方を考える。「動物」ケント紙動物の展開図を考える。
20	【対面】4 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。
21	【対面】5 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。
22	【対面】5 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。
23	【対面】5 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。
24	【対面】5 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。表面の仕上げ打ち。
25	【対面】5 日目「アルミ」の加工。金槌や当て金を使い、叩きながら加工する。表面の仕上げ打ち。形を切る。仕上げ。
26	【対面】6 日目「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。合評:学生による作品説明、教員の講評
27	【対面】6 日目「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。合評:学生による作品説明、教員の講評
28	【対面】6 日目「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。合評:学生による作品説明、教員の講評
29	【対面】6 日目「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。合評:学生による作品説明、教員の講評
30	【対面】6 日目「アルミ」の加工。残りの材料でお皿・スプーン・など制作。合評:学生による作品説明、教員の講評

科目名	工芸 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	三木 陽子、南野 馨				
クラス名	18生・陶芸クラス				
授業目的と到達目標					
やきものを制作する上で必要とされる基礎的知識と技術を習得するとともに、実際の制作を通じて素材への理解を深め、楽しさや難しさを体感し、表現力を発展させる。					
授業概要					
陶芸作品制作に使用する「土」の扱いかたと焼成(完成)までに必要なプロセスの基本を習得するために、造形的表現における重要技法である「手びねり成形」と石膏型を利用した制作を行います。・手びねり技法を用いた造形作品制作・化粧土による加飾・石膏型制作・タタラ技法と石膏型による器制作・色絵具による加飾・施釉、焼成					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
短期間に成形から焼成までを行うため、全期間の出席が求められます。受講中は制作に相応しい服装等で臨んでください。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品評価			70		
授業に向かう姿勢			30		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

三木 陽子／陶芸作家・造形作家／他大学では教科教育法(図工)を指導。また中学校美術講師・高等学校美術工芸講師の実務経験を持ち、それらの経験を活かし、指導を行う。
 南野 馨／陶芸作家・造形作家／作家活動や幾つかの陶芸教育機関での勤務経験を活かし、陶芸全般の技術と表現を習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	一日目 土練り
2	一日目 手びねり技法を用いた成形
3	一日目 手びねり技法を用いた成形
4	一日目 手びねり技法を用いた成形
5	一日目 手びねり技法を用いた成形
6	二日目 化粧土による加飾
7	二日目 化粧土による加飾
8	二日目 化粧土による加飾
9	二日目 化粧土による加飾
10	二日目 化粧土による加飾
11	三日目 石膏型制作
12	三日目 石膏型制作
13	三日目 石膏型制作
14	三日目 石膏型制作
15	三日目 石膏型制作
16	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
17	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
18	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
19	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
20	四日目 タタラ技法と石膏型による器制作
21	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
22	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
23	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
24	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
25	五日目 色絵具による加飾 施釉、焼成
26	六日目 施釉、焼成
27	六日目 施釉、焼成
28	六日目 施釉、焼成
29	六日目 施釉、焼成
30	六日目 施釉、焼成

科目名	工芸 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	井上 剛				
クラス名	18生・ガラス工芸クラス				
授業目的と到達目標					
<p>素材と技術を基にした「工芸」としてのものづくりを、その歴史、素材概要などの基礎知識と、各技法の実習を通して学習する。ガラス工芸の基礎技法について、実作業を経験し、素材からモノができるまでのプロセスを理解する。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】1) ホットワークー吹きガラスの成形行程を理解し、器物を制作することで、用についての理解を深める。 2) キルンワークー電気炉を用いた制作技法を実践する。ガラス素材の特性についての理解を深める。 3) コールドワークー様々なガラスの加工方法を理解し、基礎技術を習得する。また、素材を組み合わせて造形を試みる。教員は、各技法で制作をしてきた経験を活かし、ガラス工芸全般について総合的に指導する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
ガラス工芸技法の種別などについて事前調査					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題制作提出物(素材と技術の理解と習得)			80		
その他の提出物(理解と習熟の度合い)			20		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

ガラス作家・ガラス工芸家|自身の作品制作と並行して、プロダクトデザイナー、建築家、企業などと協業して、様々なガラス作品、製品などを制作

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	1日目授業ガイダンスガラス工芸の概要/作業
2	1日目キルンワーク(フュージング)1「技法と制作行程の説明」
3	1日目キルンワーク(フュージング)2「色板ガラスのカットと成形」
4	1日目キルンワーク(フュージング)3「色板ガラスのカットと成形」
5	1日目キルンワーク(フュージング)4「素材特性の説明と窯入れ作業」
6	2日目キルンワーク(キルンキャスト)1「粘土原型の制作」
7	2日目キルンワーク(キルンキャスト)2「石膏型の制作」
8	2日目キルンワーク(キルンキャスト)3「ガラス材料の選択と充填」
9	2日目キルンワーク(キルンキャスト)4「焼成準備と窯入れ」
10	2日目キルンワーク(キルンキャスト)4「焼成管理とプログラミング」
11	3日目ホットワーク(吹きガラス)1「吹きガラス概要説明」
12	3日目ホットワーク(吹きガラス)2「設備・機材の説明」
13	3日目ホットワーク(吹きガラス)3「作業の注意と工房での立ち振る舞い」
14	3日目ホットワーク(吹きガラス)4「デモンストレーションー道具の扱いとガラスの巻き取り」
15	3日目ホットワーク(吹きガラス)5「デモンストレーションーペーパーウエイトのつくり方」
16	4日目ホットワーク(吹きガラス)6「デモンストレーションータンブラーのつくり方」
17	4日目ホットワーク(吹きガラス)7「制作作業ータンブラー」
18	4日目ホットワーク(吹きガラス)8「デモンストレーションータンブラー制作のポイント」
19	4日目ホットワーク(吹きガラス)9「制作作業ータンブラー」
20	4日目ホットワーク(吹きガラス)10「デモンストレーションー作業行程のおさらい」
21	5日目バーナーワーク1「とんぼ玉の基礎」
22	5日目バーナーワーク2「とんぼ玉の装飾」
23	5日目バーナーワーク3「とんぼ玉の応用」
24	5日目バーナーワーク4「酸素バーナーによる制作1」
25	5日目バーナーワーク5「酸素バーナーによる制作2」
26	6日目コールドワーク1「ガラス加工法の概要」
27	6日目コールドワーク2「デモンストレーションー加工仕上げ」
28	6日目コールドワーク3「研磨加工/作品仕上げ作業」
29	6日目授業のまとめ
30	6日目合評会と意見交換

科目名	工芸 I	年次	3	単位数	4
授業期間	2024 年度 前期～後期	形態	演習		
教員名	舘 正明、高橋 亜希				
クラス名	17以前・テキスタイル・染織クラス				
授業目的と到達目標					
型染め独自の素材や工程を通して染色分野の理解を目的とし、その制作によってプロセス及び技術の習得を目標とする。(舘)織物を通じて素材(布)の特性を理解し、生地構成を知ることが目的とし、自由な精神・創造性に則り、マフラーをデザインし、実用も兼ね備えたオリジナルの1点を制作することを目標とする。(高橋)					
授業概要					
白黒草稿、リピート図案化、型彫り、糊置き、染色といった型染めの基本的な工程による染色作品の制作を行う。(舘) マフラーのデザイン(実際には織物の基本となる平織りによる生地制作)その後仕上げまで行い、着用して合評する。(高橋)					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
持ち物(舘):カッターナイフ、定規、彩色筆(2、3本)絵の具皿(もしくはパレット)、スティック糊、マスキングテープ(幅20mm前後)持ち物(高橋):スケッチブック・筆記用具・色鉛筆・はさみ					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出作品評価			70		
作品構想評価			30		
教科書情報					
教科書1	適宜必要な資料を配布				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	染めを学ぶ				
出版社名	角川書店	著者名	福本繁樹・柳楽剛・舘正明他		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

(館)染色家の教員が制作、発表で得た知見を生かし染色技法について指導する。
 (高橋)染織の教員が作家活動、織物指導、自身のブランドのデザイン・制作の経験を生かして織物の基礎からデザイン・発想などの自由な考え方についてまでの指導を行う。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	1日目(館)課題説明、テーマに添ったドローイング①
2	1日目(館)テーマに添ったドローイング②
3	1日目(館)ドローイングの再構成
4	1日目(館)再構成したものを白黒草稿及びリピート図案へ展開
5	1日目(館)型彫り(糊型染め用)
6	2日目(館)糊置き①
7	2日目(館)型彫り(ステンシル型染め用)
8	2日目(館)染料制作
9	2日目(館)ステンシル型染めの染色①
10	2日目(館)糊型染めの地入れ
11	3日目(館)糊型染めの染色①
12	3日目(館)ステンシル型染めの染色②
13	3日目(館)染料の定着
14	3日目(館)糊を落とし、布を洗う
15	3日目(館)合評
16	1日目(高橋)課題説明
17	1日目(高橋)デザイン
18	1日目(高橋)デザイン
19	1日目(高橋)デザインを基に織物計画
20	1日目(高橋)たて糸準備・機仕掛け
21	2日目(高橋)よこ糸準備
22	2日目(高橋)織る
23	2日目(高橋)織る
24	2日目(高橋)織る
25	2日目(高橋)織る
26	3日目(高橋)織る
27	3日目(高橋)糸の始末・仕上げ
28	3日目(高橋)糸の始末・仕上げ
29	3日目(高橋)糸の始末・仕上げ
30	3日目(高橋)合評

科目名	日本画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2024 年度 後期	形態	実習		
教員名	諸星 美喜、長谷川 雅也				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>建学の精神に基づき、日本画の伝統的技法および精神を習得し、時代や国境、文化を超えたコミュニケーションとしての【新しい日本画】を創造する画家や、美術に携わる人材を広く育成することを目的とする。</p> <p>①日本画制作の基礎知識(素材、道具、制作手順など)を習得します。</p> <p>②制作の基礎となる写生(デッサン)の重要性を学び、観察力や表現力の向上を計ります。</p> <p>③水干絵の具や岩絵の具、金属箔による制作を通し、日本画独特の画材や表現への興味を育みます。</p>					
授業概要					
<p>【対面授業】モチーフへの素直な観察に基づいた写生(デッサン)を軸として、日本画材料や道具、制作工程についての知識と経験の獲得をめざします。また古典研究課題や作品見本、現代作家の紹介を行い、日本画独特の表現の可能性を考えます。教員の画家活動の源泉である素描やスケッチの経験を活かし、写生のスキルや制作への展開方法の習得をめざします。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
・各課題で必要な画材を事前にお知らせしますので、持参して下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題作品			70%		
制作姿勢			30%		
教科書情報					
教科書1	適宜授業内でプリントを配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

諸星美喜の実務経験について{諸星美喜オフィシャルサイト,<https://www.mikimorohoshi.com>} {公益社団法人日展,<https://nitten.or.jp/artwork/exh191093>} {大阪芸術大学,https://www.osakageidai.ac.jp/geidai/research/laboratory/bulletin/pdf/kiyou41/geijutsu41_3.pdf}

特記事項

教員実務経験

諸星美喜: 日本画家(日展会員)、長谷川雅也: 日本画家(日展会員)
日展会員の日本画家の教員が、京都画壇で学んだ写生重視の精神を活かし、日本画の基礎となる観察力と描写力を習得させる。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	日本画制作①「鳥の剥製」鉛筆デッサン1
2	日本画制作①「鳥の剥製」鉛筆デッサン2
3	日本画制作①「鳥の剥製」鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1
4	日本画制作①「鳥の剥製」鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2
5	日本画制作①「鳥の剥製」彩色描写1
6	日本画制作①「鳥の剥製」彩色描写2
7	日本画制作①「鳥の剥製」彩色描写3
8	日本画制作①「鳥の剥製」彩色描写4
9	日本画制作①「鳥の剥製」彩色描写5
10	日本画制作①「鳥の剥製」彩色描写6 仕上げ
11	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」鉛筆デッサンと下地作成1
12	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」鉛筆デッサンと下地作成2
13	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」鉛筆デッサンと下地作成3
14	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き1
15	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」鉛筆デッサンのトレース、転写、骨描き2
16	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」彩色描写1
17	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」彩色描写2
18	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」彩色描写3
19	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」彩色描写4
20	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」彩色描写5
21	日本画制作②「貝殻、ガラス器、木の実」彩色描写6 仕上げ
22	合評 日本画制作①と②、各デッサンを合わせて講評会を実施
23	< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサーポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサーポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	染織論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	竹垣 恵子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
アジアの布の技術と変遷を学ぶことにより、現代テキスタイルデザインの根源の一端を探り、独自の作品制作・テキスタイルデザインの可能性を探る					
授業概要					
対面授業主に中国の布とそれに施された意匠、その技術について学ぶ					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
随時、必要な資料を配布するため欠席のないようにしてください					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			90		
授業態度			10		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	授業中に参考資料を配布する				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
主に中国・アジアの布を研究課題とする染織作家が担当する					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				
1	「中国の染織」について				

2	「中国の染織」 繊維(絹・木綿)から布になる過程の技術的変遷を見る ①
3	「中国の染織」 繊維(絹・木綿)から布になる過程の技術的変遷を見る ②
4	「中国の染織」 布に施す意匠 文様(主に吉祥紋様について)①
5	「中国の染織」 布に施す意匠 文様(主に吉祥紋様について)②
6	「中国の染織」 布に施す意匠 技法(染)
7	「中国の染織」 布に施す意匠 技法(織)
8	「中国の染織」 布に施す意匠 技法(刺繍)
9	「中国の染織」 皇帝の衣裳と庶民の衣裳
10	「中国の染織」 皇帝の衣裳と庶民の衣裳(皇帝の衣裳)
11	「中国の染織」 皇帝の衣裳と庶民の衣裳(チャイナドレスの変遷)
12	「中国の染織」 皇帝の衣裳と庶民の衣裳(印花布からなる衣装)
13	「日本の染織」 中国からわが国へ伝播した染織技法
14	「アジアの布」 東南アジアの布
15	まとめ

科目名	彫刻概論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	笹谷 純雄				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>人類は何万年も昔の旧石器時代から、今日では彫刻と呼ばれる立体的な造形物を作り続けてきた。人はなぜ彫刻をつくるのか。何のために彫刻をつくるのか。彫刻をつくるという活動はどのような意味や目的をもっているのだろうか。</p> <p>彫刻をつくる意味や目的はただ一つとは限らない。彫刻は、それが作られる時代によって、場所によって、状況によって、様々な意味や目的をもっている。古代と現代では異なるし、現代であっても、寺院で礼拝される神像や仏像と、展覧会に展示されて不特定多数の人々が美的に鑑賞する彫刻作品とは自ずから異なる。</p> <p>彫刻はまた単に作られてそれで終わりというわけではない。彫刻にはそれを見る人々がいる。彫刻を見るときは、どういうことなのか。彫刻をつくる意味や目的が様々であるように、彫刻を見る意味や目的もまた様々である。彫刻を信仰の対象として礼拝する人もいれば、芸術作品として美的に鑑賞する人もいる。さらには、商品として売買の対象、ときには投機の対象と考える人もいる。彫刻を見るときは、どういうことなのだろうか。</p> <p>彫刻をめぐるこうした様々な問題について考察し、彫刻についての理解を深める。</p>					
授業概要					
<p>人類は旧石器時代から絶え間なく彫刻をつくり続けてきたが、彫刻とはそもそも何なのだろうか。</p> <p>彫刻は他のもの、たとえば絵画とはどこが違うのだろうか。あるいはどこが同じなのだろうか。彫刻とは何か、彫刻の本質とは何かという根本的な問題が、単に理論の上だけでなく、彫刻制作の現場で真剣に取り上げられたのは19世紀になってから、おそらくロダンの登場以後のことである。</p> <p>それまでは、彫刻とはこういうものであるという伝統的な、暗黙の了解が作る側にも見る側にもあった。ところが、ロダンが作る彫刻は、それまで彫刻と思われていたものとは非常に違っていた。これまでならば、そんなものは彫刻ではないと黙殺されたかもしれない。しかし当時の人々はそれまでの彫刻に退屈していた。新しい刺激、新しい彫刻が求められていた。そんなときにロダンが登場した。ロダンの作品はスキャンダルを巻き起こした。ロダンを肯定する立場とロダンを否定する立場が鮮明に分かれた。そして、ロダンを支持する陣営は、それまでの彫刻とは異なるロダン彫刻の独自性を強調し、ロダンの彫刻こそが彫刻の本来あるべき姿であると主張した。そのような主張は、全面的ではないにしても、ある程度一般に認められるところとなった。そして、ロダン以後、ロダン彫刻を肯定するにせよ否定するにせよ、彫刻を志す才能のある野心的な若い作家たちは、ただ漫然と彫刻らしきものを作っているだけでは済まなくなった。彼らは彫刻とは何かを、彫刻はどうあるべきかという自らの彫刻観を、実際の彫刻制作によって模索し探求したのである。</p> <p>授業では主としてロダン以後の近代彫刻を取り上げ、彫刻作品はもちろんのこと、彫刻家たち自身の様々な言説を踏まえながら、彫刻をめぐる様々な問題について論じてゆく。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
レポート			50		
平常点			50		
教科書情報					
教科書1	教科書は使用しません。必要に応じて授業中に資料を配布します。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			

参考書情報	
参考書名1	参考図書と参考資料は授業中に随時紹介します。
出版社名	著者名
参考書名2	
出版社名	著者名
参考書名3	
出版社名	著者名
参考書名4	
出版社名	著者名
参考書名5	
出版社名	著者名
参考 URL	
特記事項	
教員実務経験	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	はじめに。授業目的と授業内容を授業シラバスにもとづいて詳しく説明する。
2	「彫刻とは何か」(その1) 彫刻をほかの美術(絵画、建築、工芸)と比較し、共通点と相違点について考え、彫刻の独自性について考察する。さらに彫刻のもつ社会的役割についても考える。
3	前回の続き。「彫刻とは何か」(その2) 彫刻家たち自身が書いた文章を読みながら、彫刻とは何か、彫刻制作とは何か、を考える。
4	前回の続き。「彫刻とは何か」(その3)
5	「オーギュスト・ロダンの生涯と作品」(その1) オーギュスト・ロダンはミケランジェロと並んで、おそらく最も有名な西洋人彫刻家であろう。実際、ロダンの登場によって、彫刻に対する考え方そのものが大きく変化したと言える。ロダンの彫刻とはどのようなものなのか、ロダン以前の彫刻とはどこが違うのか、ロダンが生きた時代状況と関連させながら、じっくりと考える。
6	前回の続き。「ロダンの生涯と作品」(その2)
7	前回の続き。「ロダンの生涯と作品」(その3)
8	前回の続き。「ロダンの生涯と作品」(その4)
9	前回の続き。「ロダンの生涯と作品」(その5)
10	「メダルド・ロツコの生涯と作品」(その1) ロツコはロダンとほぼ同時代を生きたイタリア人彫刻家である。ロツコはロダンほど知られていないが、その作品は同時代にあっては抜きん出て独特である。ロツコの独創的な彫刻は彫刻制作のあらたな可能性を開いただけでなく、「彫刻とは何か」という理論的な問題についても、独自の視点を提供してくれる。
11	前回の続き。「ロツコの生涯と作品」(その2)
12	「コンスタンチン・ブランクーシの生涯と作品」(その1) コンスタンチン・ブランクーシはロダン以後の西洋彫刻において最も重要な彫刻家である。20世紀に入り、西洋の彫刻は素材、技法、形態、テーマのいずれにおいても、従来の彫刻という概念では到底とらえられないほどに多様化した。そのような現代彫刻の最も重要な先駆者、牽引者がブランクーシである。ブランクーシが西洋彫刻の展開において果たした役割は、ロダンのそれに決して劣ることはない。ブランクーシについて語ることは、ロダンについて語ること以上に、「彫刻とは何か」と
13	前回の続き。「ブランクーシの生涯と作品」(その2)
14	前回の続き。「ブランクーシの生涯と作品」(その3)
15	授業を振り返り、「彫刻とは何か」についてあらためて考える。

科目名	陶芸論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 前期	形態	講義		
教員名	東野 真紀				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>陶芸の歴史を学び、土器や陶器や磁器といった焼物の魅力を学び、日本の文化の多様性と普遍性について、国際的視野に立っての展開に基づき、概観することを目的とする。</p> <p>また陶芸に関して、美術工芸、文化と広く学ぶことにより、新しい視野で考えることができるよう、知識を増やす様々な経験を増やすよう、歴史の文脈を知って、作品を作るときの自身の創造性を豊かにするようになる。</p>					
授業概要					
<p>日本の陶芸について、縄文時代から現代に至るまでの歴史を、社会的・文化的な背景を考えながら、その特徴をとらえる。縄文土器、渡来した須恵器、茶の湯とともに洗練された中世の工芸、近世の磁器の意匠などについて説明する。また可能な状況であれば、武者小路千家の教職を持つ教員とともに茶の湯点前の体験をする。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
レポートを必ず提出すること。陶芸のみならず、日本の美術や工芸に関する展覧会を積極的に見に行くこと。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
受講態度・小レポート			50		
レポート			50		
教科書情報					
教科書1	増補新装[カラー版]日本やきもの史				
出版社名	美術出版社	著者名	荒川正明		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	【対面】陶芸史概説日本の歴史の大きな流れを捉える。
2	【対面】縄文土器について長い歴史を持ち、強い個性を持つ縄文土器について学ぶ。
3	【対面】弥生土器について技法的には大きく変化をしないながらも、変化のあった弥生土器について学ぶ。
4	【対面】須恵器についてアジアの文化・陶芸の影響について考える。
5	【対面】中世の文化と陶芸について
6	【対面】茶の湯の文化と陶芸について 1
7	【対面】茶の湯の文化と陶芸について 2
8	【対面】茶の湯の文化と陶芸について 3
9	【対面】近世の陶芸について 1
10	【対面】近世の陶芸について 2
11	【対面】近世の陶芸について 3
12	【対面】近代の陶芸について1
13	【対面】近代の陶芸について2
14	【対面】現代の陶芸について
15	【対面】授業のまとめ・レポート発表

科目名	服飾史	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	中野 朋子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
日本の服飾の成立過程とあり方、現在に受け継がれる「きもの」文化の発生と変遷や多様性について講義する。日本の衣服の根源と流行の創造、継承について知り、考えることで、自身の作品制作の基礎知識、舞台衣裳等の選定の際の基礎知識、絵画制作に際しての基本知識等をひろく学び、創作活動に活用することができるようになることを目標とする。					
授業概要					
日本の服飾文化に関して、中国文化の影響と日本独自の服飾文化の成立・発展、社会状況の変化と服飾文化の変容(「きもの」の成立)、染織技術の発展と流行の発生・変遷に重点をおいて授業を行う。特に、江戸時代の染織技術の発展とそれに伴う流行の発生・変遷について大阪や京都を中心とした地域に焦点を当てながら丁寧に紹介する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
日本の服飾史について取り扱う講義である。※西洋服飾史については取り扱わないので注意すること。 《予習》・日本の服飾について論じるため、日本における各時代の時代区分等について あらかじめ予習して授業にのぞむことが望ましい。・きものや服飾に関連する展覧会などに足を運ぶことを推奨する。 《復習》・授業中に紹介する作品あるいは関連する絵画作品等が掲載された書籍・図版等を図書館等で確認することで授業内容を復習することが望ましい。 《評価》・評価は下記によって総合的に行う。 (1)授業内容を確認するために実施する簡易な課題(4回程度) (2)授業に取り組む姿勢 (3)期末に実施するレポート課題 なお、評価の配分は「成績評価方法・基準」に示したとおりとする。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
平常点(授業態度)			10		
授業時間中に課す課題			40		
期末のレポート課題			50		
教科書情報					
教科書1	教員作成のプリントを使用する				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	特に指定しない				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					

出版社名		著者名	
参考書名5			
出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
<p>大阪歴史博物館勤務、学芸員(工芸史・染織・服飾史担当)染織・服飾史の研究をライフワークとしています。学芸員としての仕事では、工芸一般についての研究、中でも近代工芸と茶の湯工芸についての調査研究もひろく手がけています。服飾関連の仕事としては、2010年に大阪歴史博物館で開催した「華やぎの装い鴻池コレクション展」において大阪随一の両替商で豪商として知られた鴻池家の女性たちの暮らしを彩った小袖などの華やかな衣装や婚礼調度などを紹介しました。また、2014年に開催した「意匠を読み解く小袖の魅力」展では、きもの(小袖)の文様に込められた意味を丁寧に読み解くことで、身に纏う“美術品”であった小袖とそこに込められた美意識、そして美しい小袖の製作に腐心した職人の技に注目して“小袖をみる”ことを提案しました。最近では、2024年に大阪中之島美術館の特別展「決定版！女性画家たちの大阪」において「描かれたキモノー女性画家たちがみた大阪の〈最先端〉ファッションー」と題した講演会を行ったほか、【OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK&THINK】(YouTubeによる講演会)において「おおさか“派手好き”の真実を探る」と題したお話をさせていただきました。染織品の研究としては、鴻池家が所蔵していた「名物裂」と呼ばれる染織品についての調査研究のほか、「上代裂」と呼ばれる、法隆寺や正倉院に伝来した染織品の調査研究も行っています。これらの経験を踏まえ、日本の服飾文化について講義していきます。</p>			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	講義のガイダンスならびに日本服飾史の概要・「服飾」とはなにか		
2	日本古代の服飾の推移と大陸の服飾文化の影響・飛鳥時代から奈良時代の服飾と中国および朝鮮半島からの影響について		
3	日本古代の服飾の推移と大陸の服飾文化の影響・中国および朝鮮半島からの影響について		
4	平安時代から鎌倉時代の服飾・束帯と女房装束の変遷		
5	武家の台頭と服飾の変容・武家に好まれた服飾について		
6	桃山時代の服飾・桃山時代に流行した服飾とそのデザインならびに加工技術について		
7	江戸時代の服飾と諸工芸・江戸時代の服飾の大まかな変遷と服飾以外の諸工芸のデザイン傾向、両者の異同について考える		
8	江戸時代前期の服飾・江戸時代前期の服飾の変遷や加工技術について論じる		
9	江戸時代中期の服飾・江戸時代中期の服飾の変遷や加工技術について論じる		
10	江戸時代後期の服飾・江戸時代後期の服飾の変遷や加工技術について論じる		
11	江戸時代の大坂の服飾・江戸時代後期を中心に、江戸地域とは異なる大坂の服飾の好みを探る		
12	江戸から明治の「舶来趣味」(外国染織の利用、相関性)・江戸時代から明治時代に多く舶載された諸外国の染織について知り、これらの染織品が日本の服飾にどのような影響を与えたのかについて考える		
13	近代の服飾①・明治時代の新政府主導で推進された西洋化が人々の服飾にどのような影響を与えたのか。「きもの」「洋服」「和服」という語の成立にも注目しつつ論じる		
14	近代の服飾②・大正から昭和初期の「東京」地域と「大阪」地域の服飾流行の相違や共通点について、同時期に製作されたきものに加え、多彩な絵画作品などを参照することでより理解を深めていく		
15	服飾史講義のまとめ・講義内容を振り返り、日本の服飾の成立過程とあり方やその多様性について振り返る		

科目名	絵画概論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>テーマに掲げる「絵画の可能性と多様性」に多面的にアプローチし、絵画への理解を深めるとともに、美術の制作に役立つ鑑賞力を養うのが授業目的である。授業を通して、鑑賞力に含まれる芸術的感受力、内容読解力、造形的思考力、総合的批評力、発展的着想力を高めていくのが到達目標となる。</p>					
授業概要					
<p>西洋絵画、日本絵画、前衛絵画、身近な絵画を鑑賞対象とし、豊富な視覚資料をスライドショー等で提示して、「考えながら見る」習慣を徐々に身につけさせていく。その際に比較鑑賞や細部鑑賞を活用して、作品の造形的本質に迫っていく。教師の問いかけに受講生が答える対話形式で理解を深めていく授業形態なので、受講生には積極的な意見発表が求められる。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>事前に予備知識を入れる必要はないが、とにかく授業に集中して参加し、気づいたことや考えたことをメモする習慣を着け、レポート作成に備える姿勢が望まれる。ネットなどに上がっている知識は、誰でも入手できるのであまり評価されない。なお、テキストは事前に購入しておくこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
前半と後半の授業の中から3つの授業を選んで行う2回の「授業のまとめ」レポート			80%		
授業に取り組む姿勢			20%		
教科書情報					
教科書1	美との対話－鑑賞への誘い－				
出版社名	日本文教出版	著者名	泉谷淑夫		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	鑑賞ガイドブック・日本美術 101、鑑賞ガイドブック・西洋美術 101				
出版社名	三元社	著者名	神林恒道、新関伸也、泉谷淑夫 他		
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
<p>全部の講義に出席していても、2回の「授業のまとめレポート」の記述内容から著しく学んでいないと判断された場合は不可になります。またレポートに授業内容と関係のない内容をたくさん書いても評価されません。各レポートの合格ラインは60%です。</p>	
教員実務経験	
<p>教員は長年にわたって絵画制作・発表と並行して、実践的な鑑賞教育について研究し、著書や論文も著している。</p>	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	ガイダンス:スライドショーによる授業者の絵画制作紹介と絵画制作における鑑賞の重要性についての講義
2	社会における美術の役割 TVドラマの録画視聴とスライドショーによる物語の構造分析
3	生涯に渡り絵画の創造に取り組んだ浮世絵師・北斎を自己教育の天才と位置づけ、その北斎が生涯のテーマとした「大波」の表現にフォーカスし、その発祥と変遷、「大波」に隠された北斎芸術の真髓を、豊富な視覚的資料を活用して探っていく。
4	自分に合った表現を求めて①ゴッホの場合 スライドショーでゴッホの表現の変遷をたどり、ゴッホが生涯をかけて求めたものを多角的に検証し、ゴッホ芸術の本質を探っていく。
5	自分に合った表現を求めて②速水御舟の場合 スライドショーで速水御舟の表現の変遷をたどり、日本画の革新に取り組んだ御舟の斬新さや苦闘を明らかにしていく。
6	西洋絵画の主題「美しい人間像」 イタリア・ルネサンスの二人の巨人レオナルドとミケランジェロの対照的な人間表現を比較し、西洋絵画の主要のモチーフとしての人物表現について考察する。
7	日本絵画の主題「虫」 西洋絵画の主題と対照的な「虫」という日本的な主題にアプローチし、多様な作家の表現から日本人の「虫を愛でる心」を探っていく。
8	レポート作成① 前半6回の授業を振り返って、印象的だったものを三つ選び、「授業のまとめ」レポートを作成する。
9	北方ルネサンスの巨匠ヤン・ファン・エイクとピーテル・ブリューゲルを取り上げ、北方絵画の特色である細密描写と質感描写の真髓にスライドショーで迫り、その魅力をじっくりと味わう
10	視覚装置としての絵画の可能性の観点から日本の屏風絵を取り上げ、屏風絵の名作を紹介するとともに、そこに隠された構造と魅力に迫る。合わせて宗達。光琳、抱一の屏風絵を通した「琳派の絆」についても多角的に検証していく。
11	現代美術の冒険者たち① 現代において「造形芸術の可能性と多様性」を追求する魅力的で刺激的な作家として、福田繁雄と福田美蘭父娘を取り上げ、スライドショーで詳しく紹介し、極上ウィットのDNAがどのように引き継がれているのかを見て行く。
12	現代美術の冒険者たち②として現代において「絵画の可能性と多様性」を追求する魅力的で刺激的な作家として神出鬼没の路上アーティスト・バンクシーを取り上げ、スライドショーで詳しく紹介するとともに、世界の危機に立ち向かうバンクシーからのメッセージについて考察する。
13	身近な美術であるイラストレーションの真髓として、アメリカの代表的イラストレーター、ノーマン・ロックウェルを取り上げ、考え抜かれた構図や適確な描写力を味わいながら、作品に込められた深いメッセージを読み解いていく。
14	身近な美術としての絵本を取り上げ、鑑賞対象として絵本を認知するための契機として、ユーモアとウィットに富んだアンソニー・ブラウンの絵本を紹介し、作品に込められた深いメッセージを読み解いていく。
15	レポート作成② 後半6回の授業を振り返って、印象的だったものを三つ選び、「授業のまとめ」レポートを作成する。

科目名	美術鑑賞論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度 後期	形態	講義		
教員名	泉谷 淑夫				
クラス名	【18以降生対象】				
授業目的と到達目標					
美術作品を幅広く受け入れて、それぞれの良さを味わい、造形への理解を深めるとともに、美術への関心を高めることが授業目的である。その過程で、多くの作品に触れながら自己を発見し、造形思考を磨いて豊かな鑑賞力を身につけることが到達目標である。このため授業に積極的に参加して貴重な鑑賞機会としていく姿勢が大前提となるので、欠席は極力回避すること。					
授業概要					
西洋の美術、日本の美術、前衛美術、身近な美術を鑑賞対象とし、豊富な視覚資料をスライドショーで提示して「考えながら見る」習慣を徐々に身に着けさせていく。その際に比較鑑賞や細部鑑賞を活用して、作品の造形的本質に迫っていく。教師の問いかけに受講生が答える対話形式で理解を深めていく授業形態なので、受講生には積極的な意見発表が求められる。なお、授業者は長年にわたり鑑賞教育に携わり、著書や多数の論文を執筆している。一部、授業内容に変更が出る場合があります。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
事前に予備知識を入れるなどの必要はないが、とにかく授業に集中して臨み、気づいたことや考えたことなどをメモして、授業のまとめレポートの準備をすること。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
2回の「授業のまとめ」レポート			80%		
授業に取り組む姿勢			20%		
教科書情報					
教科書1	美との対話-鑑賞への誘い-				
出版社名	日本文教出版	著者名	泉谷淑夫		
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	日本美術 101 西洋美術 101				
出版社名	三元社	著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					

全部の講義に出席していても「授業のまとめ」レポートの記述内容から、著しく学んでいないと判断された場合は不可になります。またレポートに授業内容と関係のない内容をたくさん書いても評価されません。2回のレポートの合格ラインはいずれも60%です。

教員実務経験

教員は長年にわたり画家としての立場から美術鑑賞教育の実践研究に取り組んでいて、著書、論文、講演などを通して、美術鑑賞教育の必要性や重要性を説いている。有効な鑑賞の手法として、スライドショーによる比較鑑賞と対話型鑑賞を組み合わせた形態を開発している。

授業計画(各回予定)

授業回	授業内容
1	ガイダンス 美術鑑賞入門 比較鑑賞トレーニング
2	西洋美術入門①『レオナルドの《最後の晩餐》の謎』レオナルド以前の「晩餐図」から以後の「晩餐図」の変遷を見た後、レオナルドの《最後の晩餐》にまつわるいくつかの謎にアプローチしていく。
3	西洋美術入門②『フェルメールと同時代の画家たち』現代のフェルメール・ブームの問題点に触れた後、フェルメールが活躍した17世紀オランダ絵画の状況を再現して、フェルメールの独自性を明らかにしていく。
4	西洋美術入門③『ミレーの《落ち穂拾い》を読み解く。』ミレーの人物表現に焦点を当て、その特色を確認した上で代表作の《落ち穂拾い》を様々な類似作との比較鑑賞を通して、構図や主題の違いを浮き彫りにし、ミレーの《落ち穂拾い》の独自性を読み解いていく。
5	日本美術入門①『UKB52って何?』UKB52を取り上げ、UKBの位置づけを確認した後、現代に通じるアイドルの売り出し戦略を考察するとともに、個々のUKBを鑑賞して、自分なりの「推し」を探す。
6	日本美術入門②『尾形光琳の《紅白梅図》屏風の構図の謎』日本独自の絵画形式である屏風絵の構造的な特色に触れた後、光琳の《紅白梅図》屏風を取り上げ、屏風絵の伝統から著しくはずれたその構図の謎に迫っていく。
7	日本美術入門③『歌麿美人画人気の秘密』歌麿の美人画がなぜ当世人気があったのかを、当時の出版事情の観点から多角的に探っていく。後半は歌麿美人画の代表作を取り上げ、大首絵の構図やポーズ、透かしの技法、母と子の情景などをじっくり味わっていく。
8	「授業のまとめ」レポート① 前半の授業の中から三つを選び、授業で学んだことや考えたこと、感想や意見などを授業の内容に沿って具体的に論述する。
9	前衛美術①『生き続ける前衛精神デュシャン』今も前衛美術の神様として崇拝されるデュシャンを取り上げ、前半生をクール、後半生をホットと位置づけ、代表的な油彩作品やレディメイド作品を比較鑑賞して、デュシャンの制作意図やメッセージを読み解いていく。
10	前衛美術入門②『時代錯誤?ダリの宗教画』シュルレアリスムの旗手として活躍したダリの1940年代以降に焦点を合わせ、原子核的神秘主義に基づく宗教画の大作の数々を紹介し、伝統とのつながりや、最愛の妻ガラとの関連、逆説的な前衛性を掘り下げていく。
11	前衛美術入門③『リクテンスタインの冷めた革命』ポップ・アートの旗手リクテンスタインを取り上げ、美術史上のスキャンダルを紹介した後、リクテンスタインが素材にしたコミックスの原画と完成作の比較を通して、リクテンスタインがマンガから芸術を生み出したマジックを解明する。
12	身近な美術入門①『ミュシャが長く愛される理由』アールヌーボーの旗手ミュシャを取り上げ、同時代のポスター作家たちとの比較を通してミュシャの造形の特色を明らかにし、ミュシャが長く愛される理由を探るとともに、その造形への意外な影響源を探っていく。
13	身近な美術入門②『ロックウェルの演出を読み解く』アメリカを代表するイラストレーター、ノーマン・ロックウェルを取り上げ、ユーモア溢れる作風を紹介した後、代表作の比較鑑賞を通して、構図の妙や作品に込められた深いメッセージをじっくり読み解いていく。
14	身近な美術入門③『文字なし絵本に学ぶ』絵本のメディア性が最も生かされている文字なし絵本の世界を、三つの代表的絵本を通して味わう。後半は日本とアメリカの代表的な文字なし絵本を比較鑑賞し、共通点や相違点の発見から日米の絵本表現の違いを解明していく。
15	「授業のまとめ」レポート② 後半の授業の中から三つを選び、授業で学んだことや考えたこと、感想や意見などを授業の内容に沿って具体的に論述する。

科目名	金工論	年次	2	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	講義		
教員名	三好 正豊				
クラス名					
授業目的と到達目標					
金属工芸の基礎知識を理解して学び、金属工芸で用いられている技法(彫金・鍍金・鍛金)・歴史を知り、現代の金属工芸について学ぶ。受講を通じて金工の基礎的な知識、技法、作家のものづくりへの姿勢を学び各自の作品制作に結びつける。					
授業概要					
金属工芸では様々な作品が作られている。それはどのような意味があり、どんな技法、素材で作られたかを時代を追って述べる。又現代の金属工芸作品についてプリント、動画等を用いて解説し各自の作品制作の手助けとする。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出感想文			60		
受講態度			40		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	工芸家のための金属ノート金属ノート				
出版社名	香取一男	著者名	香取一男		
参考書名2	金工の伝統技法				
出版社名	理工学社	著者名	香取正彦・伊尾敏雄・井伏圭介		
参考書名3	金工の着色技法				
出版社名	理工学社	著者名	長野裕・伊尾健二		
参考書名4	黄金有情				
出版社名	里文出版	著者名	大角幸枝		
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
千家十職中川浄益茶道具製作に従事、大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	金属の成立ち
2	金属材料 鉄・金・銀
3	金属材料 銅合金について
4	金属材料の抗菌性・金属アレルギーについて
5	日本刀について日本刀の材料について
6	①日本刀を支える人々
7	②日本刀を支える人々
8	鑄造技法について
9	鑄造技法について
10	彫金技法について
11	彫金技法について
12	鍛金技法について
13	鍛金技法について
14	超絶技法について
15	自在置物について

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	谷口 貞久				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラビアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
作品点と授業態度や授業に取り組む姿勢等、総合的に評価			100%		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
子供絵画教室・中学校～短大・大人の方まで幅広く長年指導した経験を生かし、基礎力向上の授業を行います。(公社)二科会 会員 (社)日本美術家連盟 会員					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	ガイダンス授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・11段階グレースケール枠作成
2	課題1:基礎デッサン1(1回目)「グレースケール制作・手のデッサン」鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)
4	課題2:基礎デッサン2(1回目)「色鉛筆デッサン(組モチーフ)...玉ねぎ又はリンゴ・紙コップ・立方体」構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)
6	課題3:遠近法基礎「ティッシュ箱描写」各種の遠近法、モチーフによる遠近法の使い分け
7	課題4:遠近法応用(1回目)「構築物デッサン(校内)」構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
8	課題4:遠近法応用(2回目)
9	課題4:遠近法応用(3回目)
10	課題4:遠近法応用(4回目)
11	課題5:想定デッサン(1回目)「構築物(遠近法)を利用したシュルレアリスム的作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び講評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
12	課題5:想定デッサン(2回目)
13	課題5:想定デッサン(3回目)
14	課題5:想定デッサン(4回目)
15	課題5:想定デッサン(5回目)

科目名	造形芸術演習Ⅱ	年次	1	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	開藤 菜々子				
クラス名					
授業目的と到達目標					
制作することの楽しさや可能性を見出し、創造する為に必要な描写力や表現力を身につける。					
授業概要					
【対面授業】基本となる観察から始め、構造の理解や遠近法を学び、徐々に難易度を高めていき、最終的にはグラフィアや写真等を使用した想定デッサン(ものを見て描く力だけでなく、自分の視点や発想を表現するデッサン)を行います。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
個人の準備物は必ず持参してください。又、積極的かつ意欲ある姿勢で授業に臨んで下さい。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
提出課題		50%			
クロッキー		10%			
授業態度や授業の取り組み		40%			
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
造形高校で勤務していた教員が、造形授業の経験を活かし、ものの見方・形の捉え方などのデッサンの基礎や技術を修得させる。					
授業計画(各回予定)					

授業回	授業内容
1	ガイダンス授業説明・デッサンについて・個人用準備物について・クロッキーについて・11段階グレースケール枠作成
2	課題1:基礎デッサン1(1回目)「グレースケール制作・手のデッサン」鉛筆や筆圧の使い分け、面の方向性や明暗の取り方 形態の把握(骨格や肉付き)・質感・量感、ポーズの取り方
3	課題1:基礎デッサン1(2回目)
4	課題2:基礎デッサン2(1回目)「色鉛筆デッサン(組モチーフ)...玉ねぎ・紙コップ」構図・構成の取り方、空間の表現、彩色の仕方
5	課題2:基礎デッサン2(2回目)
6	課題4:遠近法応用(1回目)「構築物デッサン(校内)」構築物の把握と空間の認識・表現、ダイナミックな光と陰影
7	課題4:遠近法応用(2回目)
8	課題4:遠近法応用(3回目)
9	課題4:遠近法応用(4回目)
10	課題5:想定デッサン(1回目)「構築物を利用したシュールレアリスムの作品(色鉛筆をどこかに使用する)」及び合評 超現実的な作品制作、イメージの具現化、素描作品としての見せ方
11	課題5:想定デッサン(2回目)
12	課題5:想定デッサン(3回目)
13	課題5:想定デッサン(4回目)
14	課題5:想定デッサン(5回目)
15	講評

科目名	版画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2024 年度 前期	形態	実習		
教員名	森本 由貴子、梅田 美里				
クラス名					
授業目的と到達目標					
版画制作に必要とする基礎知識や技術を習得すると共に、円滑な大学生活をサポートする。					
授業概要					
版画の成り立ちや歴史を学び、それぞれの版種の表現方法や技法を習得する。担当教員はアーティストとしての経験を活かし、版表現の魅力を指導する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館や画廊等で開催されている展覧会の作家や作品研究。欠席届は教員にメールし、次回の実習について確認する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題作品			70%		
制作への取り組み			30%		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
アーティスト、版画家					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				

1	1 校内案内 銅版画説明 エスキース
2	2 ラフスケッチ・孔版画説明・ステンシル制作
3	3 銅版画 1 作目(エッチング、アクアチント) 製版
4	4 銅版画 1 作目(エッチング、アクアチント) 製版
5	5 孔版(シルクスクリーン)下絵・製版
6	6 銅版画 1 作目(エッチング、アクアチント) 製版
7	7 銅版画 1 作目 刷り
8	8 孔版(シルクスクリーン)製版・刷り
9	9 銅版画 1 作目を踏まえ、2 作目の目標設定 エスキース 製版
10	10 銅版画 2 作目 製版
11	11 孔版(シルクスクリーン)製版・刷り
12	12 版画 2 作目 製版 版画コースの見学①
13	13 銅版画 2 作目 製版 版画コースの見学②
14	14 凸版説明・下絵作成
15	15 銅版画 2 作目 刷り
16	16 平版説明 エスキース 博物館の版画作品のビューイング
17	17 凸版 彫り・摺り
18	18 平版描画
19	19 平版描画 製版
20	20 凸版仕上げ 合評(孔版・凸版)
21	21 平版 刷り
22	22 課題作品の合評 ※ 火曜日、木曜日、金曜日通して22回の授業があります。
23	< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	版画実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2024 年度 後期	形態	実習		
教員名	森本 由貴子、梅田 美里				
クラス名					
授業目的と到達目標					
版画制作に必要とする基礎知識や技術を習得すると共に、円滑な大学生活をサポートする。					
授業概要					
版画の成り立ちや歴史を学び、それぞれの版種の表現方法や技法を習得する。担当教員はアーティストとしての経験を活かし、版表現の魅力を指導する。					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
美術館や画廊等で開催されている展覧会の作家や作品研究。欠席届は教員にメールし、次回の実習について確認する。					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
課題作品			70%		
制作への取り組み			30%		
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					
アーティスト、版画家					
授業計画(各回予定)					
授業回	授業内容				

1	1 校内案内 銅版画説明 エスキース
2	2 ラフスケッチ・孔版画説明・ステンシル制作
3	3 銅版画 1 作目(エッチング、アクアチント) 製版
4	4 銅版画 1 作目(エッチング、アクアチント) 製版
5	5 孔版(シルクスクリーン)下絵・製版
6	6 銅版画 1 作目(エッチング、アクアチント) 製版
7	7 銅版画 1 作目 刷り
8	8 孔版(シルクスクリーン)製版・刷り
9	9 銅版画 1 作目を踏まえ、2 作目の目標設定 エスキース 製版
10	10 銅版画 2 作目 製版
11	11 孔版(シルクスクリーン)製版・刷り
12	12 版画 2 作目 製版 版画コースの見学①
13	13 銅版画 2 作目 製版 版画コースの見学②
14	14 凸版説明・下絵作成
15	15 銅版画 2 作目 刷り
16	16 平版説明 エスキース 博物館の版画作品のビューイング
17	17 凸版 彫り・摺り
18	18 平版描画
19	19 平版描画 製版
20	20 凸版仕上げ 合評(孔版・凸版)
21	21 平版 刷り
22	22 課題作品の合評 ※ 火曜日、木曜日、金曜日通して22回の授業があります。
23	< 初年次教育 > 初回授業 防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。

科目名	彫刻実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2024 年度 前期	形態	実習		
教員名	本多 紀朗、藤木 康成				
クラス名	火曜日(藤木担当) 木曜日、金曜日(本多担当)				
授業目的と到達目標					
<p>藤木 康成(火曜3～5)身近な自然物の観察を通じて彫像(カービング)による立体表現を身に付ける。対象(握り拳)の構造を適確に把握し対象である自然物の構造を的確に把握し、造形性豊かなカービング表現表現ができたかどうか。</p> <p>本多 紀朗(木曜3～5・金曜3～5)立体表現に必要な基本的な造形要素の技術的習得を目標として、アカデミックな表現を実践し、さらにその展開の可能性を引き出したい。</p>					
授業概要					
<p>藤木 康成(火曜3～5)デッサン(三面図)よりカービングの材料である石膏塊を造る為の型枠を造る。彫りにおいては面、量感、プロポーションを意識し、外より内に向かう感・バランス・面などを意識し、内より外へ向かう強いカービング表現を行う。彫るための道具(平刀、小刀)の取り扱いを理解し、観察表現をより造形的な作品造りへと向かう姿勢を学ぶ。</p> <p>本多 紀朗(木曜3～5・金曜3～5)モデリング技法による具象的表現と、カービング技法による抽象的作品を課題として制作する。高い密度と完成度を期待する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>藤木 康成(火曜3～5)石膏塊を彫るので必ず作業衣を準備する。遅刻、欠席すると、制作時間不足で未完成になる恐れがあるので、十分に注意しなさい。</p> <p>本多 紀朗(木曜3～5・金曜3～5)3分の2以上の出席をすること。中品程度の大きさの作品であること。汚れてもよい服装と、適当な大きさのスケッチブックと鉛筆等の準備をする。遅刻をしないこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
密度と完成度を重視した総合評価			100		
教科書情報					
教科書1	なし。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	なし。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					

出版社名		著者名	
参考 URL			
特記事項			
教員実務経験			
藤木康成 長年にわたる彫刻作家の経験、実践を活かして彫刻制作への興味関心を深めるよう丁寧に指導。 本多紀朗 彫刻家の教員が、数多くの制作発表と社会活動を行ってきた経験を活かし、造形の基礎力と表現力を修得させる。			
授業計画(各回予定)			
授業回	授業内容		
1	< 火曜日 >藤木 康成(火曜3~5) 1)オリエンテーション。デッサン(三面図)。デッサン上のH. W. Dを決め石膏を流し込む型枠を造る。石膏液を流し込む。		
2	2)石膏塊の正面部に荒彫りの線引をし、彫り始める。		
3	3)同上。		
4	4)側面部に荒彫りの線引をし、彫り進める。		
5	5)同上		
6	6)上面部に荒彫りの線引をし、彫り進める。		
7	7)三面図、自身の握り拳、石膏塊の三者をしっかりと見比べさらに彫り進める。		
8	8)同上。完成。		
9	< 木曜日・金曜日 >本多 紀朗(木曜3~5 ・ 金曜3~5) 1)初年次教育、デッサン		
10	2)デッサン、マケット制作		
11	3)マケット制作、心材作り、土付け		
12	4)心材作り、土付け、面談		
13	5)土付け		
14	6)土付け		
15	7)土付け		
16	8)土付け仕上げ		
17	9)石膏型取り		
18	10)石膏型取り、型に樹脂張り込み		
19	12)型に樹脂張り込み		
20	13)着色、面談		
21	14)着色、完成、面談		
22	< 初年次教育 > 初回授業防犯・防災について(富田林警察)・心身のケアと健康管理(キャンパスサーポートルーム) 展示ホール・収蔵庫・学芸員資格について(博物館) 図書館・展示ホール・体育館ギャラリー・インターネットルーム・体育館・トレーニングルーム・キャンパスサーポートルーム・保健室・食堂・学生課・教務課等の学内見学 「大学生活の目標と行動計画」を基礎とし前期の目標や大学での学びについてクラスディスカッション。		

科目名	彫刻実習 I	年次	1	単位数	3
授業期間	2024 年度 後期	形態	実習		
教員名	本多 紀朗、藤木 康成				
クラス名	火曜日(藤木担当) 木曜日、金曜日(本多担当)				
授業目的と到達目標					
<p>藤木 康成(火曜3~5)身近な自然物の観察を通じて彫造による立体表現を身に付ける。対象である自然物(握り拳)の構造を的確に把握し、造形性豊かな彫造表現ができたかどうか。</p> <p>本多 紀朗(木曜3~5・金曜3~5)立体表現に必要な基本的な造形要素の技術的習得を目標として、アカデミックな表現を実践し、さらにその展開の可能性を引き出したい。</p>					
授業概要					
<p>藤木 康成(火曜3~5)デッサン(3方向からの)より石膏塊を造る為の型枠造りから始める。彫りにおいては面、量感・バランス・プロポーションを意識し、外より内に向かう強いカービング表現を行う。道具(平刀、小刀)の取り扱いを理解し、観察表現をより造形的に優れた作品造りへと向かう姿勢を学ぶ。</p> <p>本多 紀朗(木曜3~5・金曜3~5)モデリング技法による具象的表現と、カービング技法による抽象的作品を課題として制作する。高い密度と完成度を期待する。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>藤木 康成(火曜3~5)石膏塊を彫る、削る作業の為必ず作業衣を準備する。遅刻や欠席があると未完了に終わります。気を付けてコツコツ実習しなさい。</p> <p>本多 紀朗(木曜3~5・金曜3~5)3分の2以上の出席をすること。中品程度の大きさの作品であること。汚れてもよい服装と、適当な大きさのスケッチブックと鉛筆等の準備をする。遅刻をしないこと。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
密度と完成度を重視した総合評価			100		
教科書情報					
教科書1	なし。				
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1	なし。				
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					

特記事項	
教員実務経験	
藤木康成 長年にわたる彫刻作家の経験実践を踏まえ、彫刻制作への興味関心を深めるよう丁寧に指導。 本多紀朗 彫刻家の教員が、数多くの制作発表と社会活動を行ってきた経験を活かし、造形の基礎力と表現力を修得させる。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	< 火曜日 >藤木 康成(火曜3~5) 1)オリエンテーション。デッサン。型枠造り。石膏液の流し込み。
2	2)石膏塊の正面に荒彫りの線引をして彫り始める。
3	3)同上。
4	4)石膏塊の側面に荒彫りの線引をして彫り進める。
5	5)同上。
6	6)石膏塊の上面に荒彫りの線引をしてさらに彫り進める。
7	7)石膏塊、握り拳、三面図の三者を見比べてさらに彫り進める。
8	8)同上。完成。
9	< 木曜日・金曜日 >本多 紀朗(木曜3~5 ・ 金曜3~5)1)デッサン
10	2)デッサン、マケット制作
11	3)マケット制作、心材作り、土付け
12	4)心材作り、土付け、面談
13	5)土付け
14	6)土付け
15	7)土付け
16	8)土付け仕上げ
17	9)石膏型取り
18	10)石膏型取り、型に樹脂張り込み
19	12)型に樹脂張り込み
20	13)着色、面談
21	14)着色、完成、面談

科目名	工芸Ⅱ	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2024年度前期	形態	演習		
教員名	釜本 幸治				
クラス名					
授業目的と到達目標					
<p>予習: 様々な素材のテクスチャー(質感・肌)を観察する。 授業目的と到達目標: 同じ素材や形においても、表面の質感(ざらざら・ぼこぼこ・つるつるなど)によって、柔らかさや温かみ、硬質さなど伝わるイメージは異なります。授業では金属の表面に各自の伝えたいイメージの質感を入れる為の道具制作を行い、素材や制作方法について学びます。</p>					
授業概要					
<p>金属の表面に模様を入れる為の道具造りを行い、製作した道具を基に作品制作を行います。制作するアイテムは、お皿やコップなど実用性のある物から、オブジェなど各自で選択して制作して頂きます。</p>					
準備学修(予習・復習)・受講上の注意					
<p>金工工房では、安全で汚れてもよい作業に適した服装を基本とし、サンダルや半ズボンなどの軽装は禁止とする。</p>					
成績評価方法・基準					
種別			割合(%)		
制作作品					
制作への取り組み					
教科書情報					
教科書1					
出版社名		著者名			
教科書2					
出版社名		著者名			
教科書3					
出版社名		著者名			
参考書情報					
参考書名1					
出版社名		著者名			
参考書名2					
出版社名		著者名			
参考書名3					
出版社名		著者名			
参考書名4					
出版社名		著者名			
参考書名5					
出版社名		著者名			
参考 URL					
特記事項					
教員実務経験					

金工家として作品制作や発表の経験を活かした指導を行います。	
授業計画(各回予定)	
授業回	授業内容
1	初回: 課題説明。模様をつける為の金属を流し込む鑄型の製作。様々なテクスチャーの転写方法を学ぶ。
2	2日目: 模様をつける道具の製作。作品制作。
3	3日目: 作品制作。合評。